

F-M3-9破碎帯 研磨片観察結果(3US-B1破碎部)

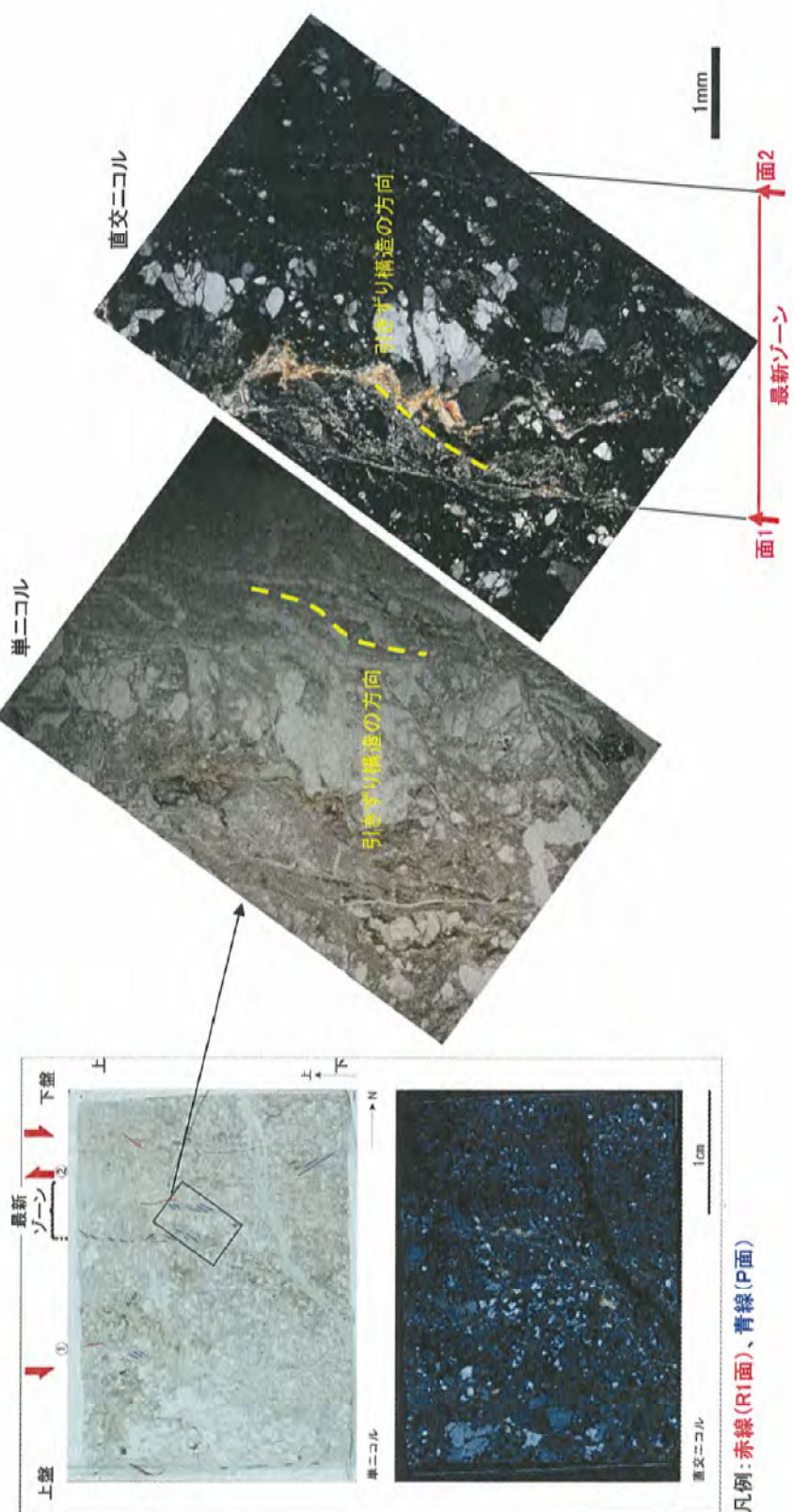


凡例: 白破線(断層面)、赤線(R1面)、青線(P面)

断層面の走向傾斜: N63E/73S

CT画像観察で認められた断層面1および断層面2以外にもY面が認められるが、いずれも不明瞭であり連続性に乏しい。
断層面1は直線性・連続性が相対的に富む。一方、断層面2は研磨面を横断しない。
断層面1は複合面構造により正断層成分を示す。
研磨片観察の結果からも、断層面1は他の構造に切られず、連続性・直線性が相対的に富むことを確認した。

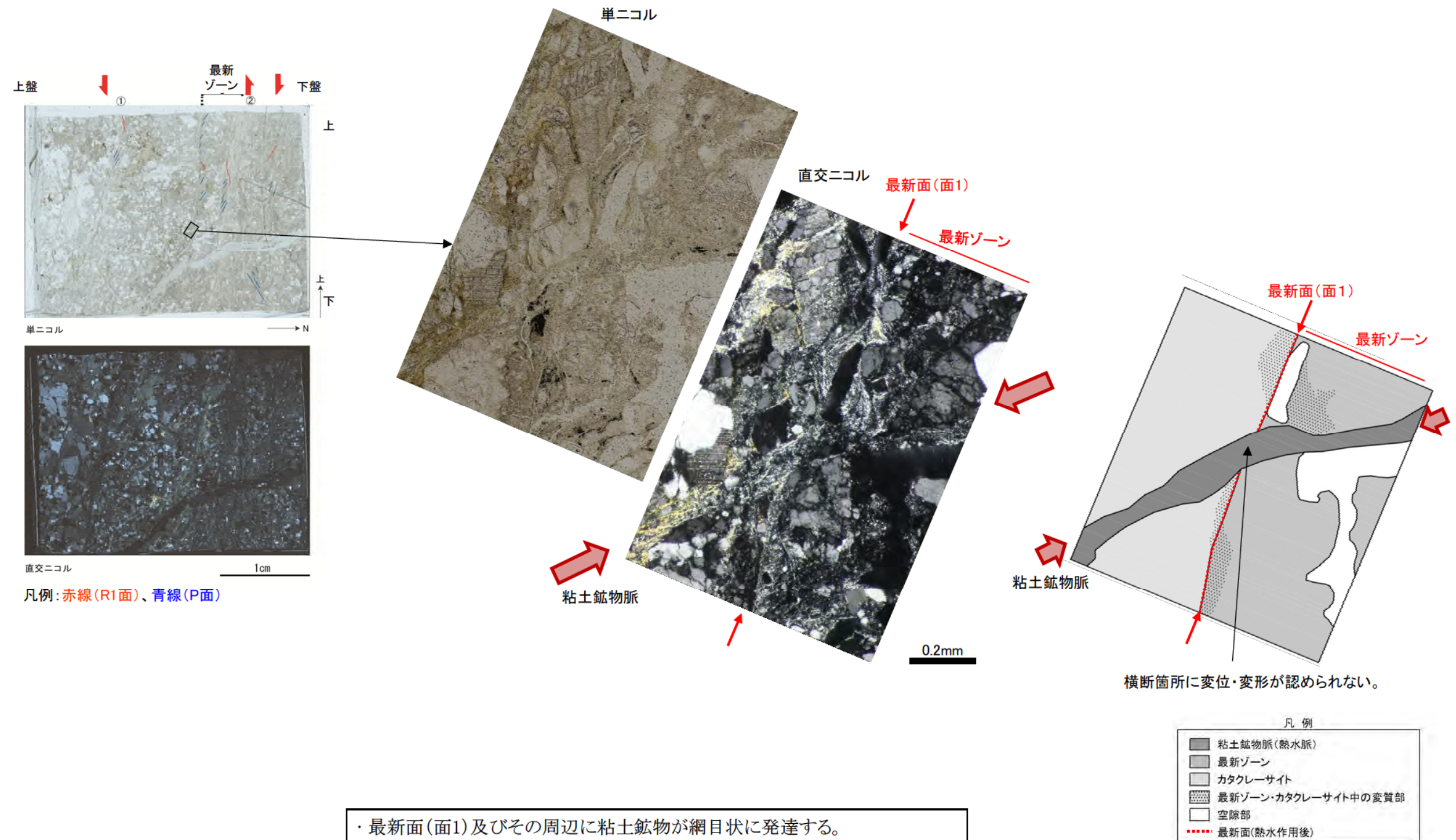
F-M3-9破砕帯 薄片観察結果 (3US-B1破砕部) (1)



- 凡例：赤線(R1面)、青線(P面)
- ・ 観察の結果、粗粒カタクレーサイト(①)と細〜中粒カタクレーサイト(②)に分帯される。薄片中に面構造が2本認められ、それぞれ面1、面2とした。薄片を横断する面構造は①と②の境界に1本(面1)認められる。面1と面2に挟まれた区間は、フラグメントの細粒化が認められることから最新ゾーンである。さらに詳細に観察すると、面1は、面2に比べて直線性に富む。最新ゾーンには、正断層成分を示す引きずり構造が認められる。最新ゾーンに認められる構造は、この構造のみである。
 - ・ 面1が連続性に富み、最も細粒化が進んだ破砕部を伴うことを確認し、最新面と認定した。また、最新ゾーンには層状構造は認められない。
 - ・ 断層の走向傾斜がN63E/73S、条線角度が74NE及び90°であることから、最新活動は左横ずれを伴う正断層センスである。

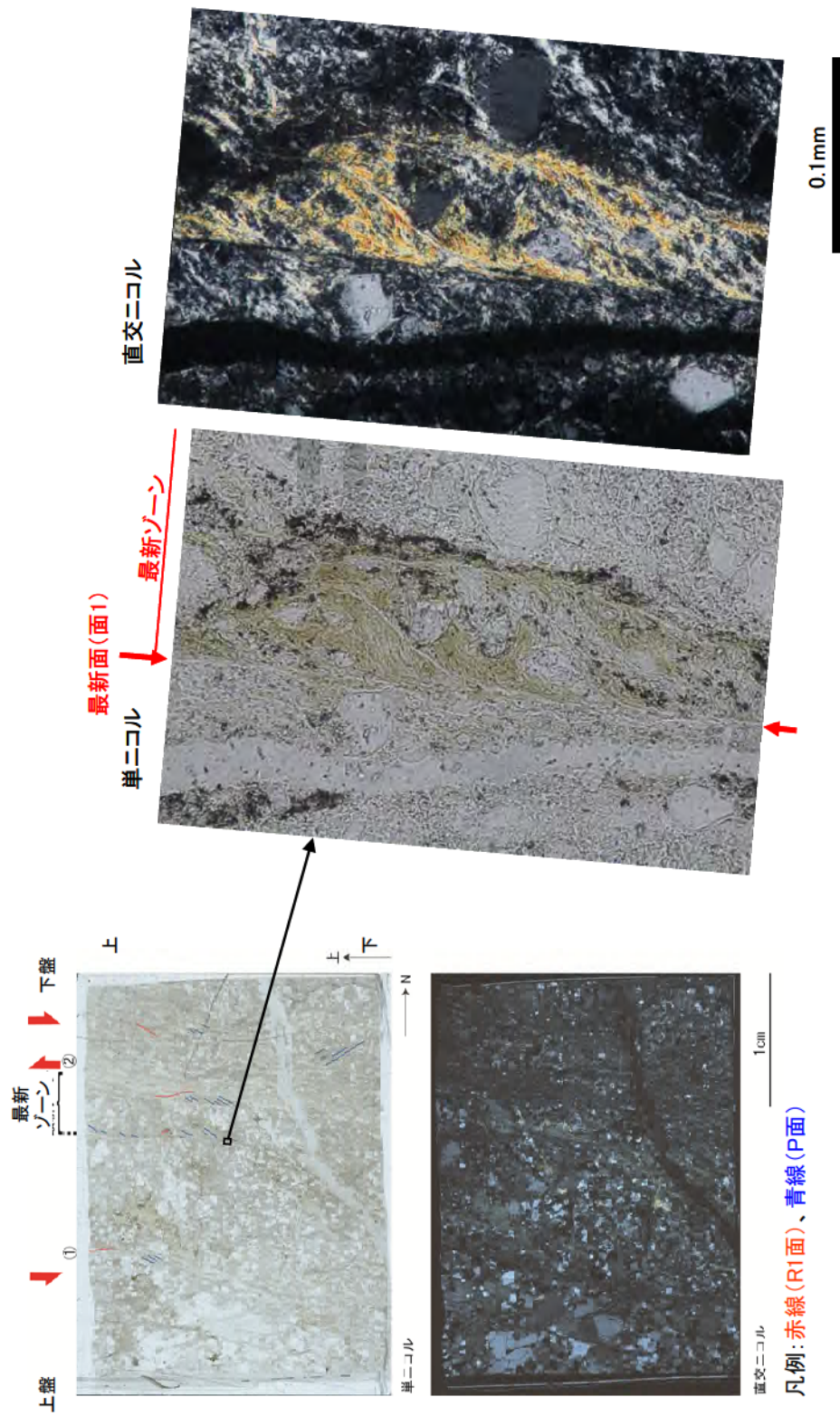
第 1.6.97 図 (1) F-M3-9 破砕帯 薄片観察結果 (3US-B1 破砕部) (1)

F-M3-9破碎帯 薄片観察結果(3US-B1破碎部) (2)



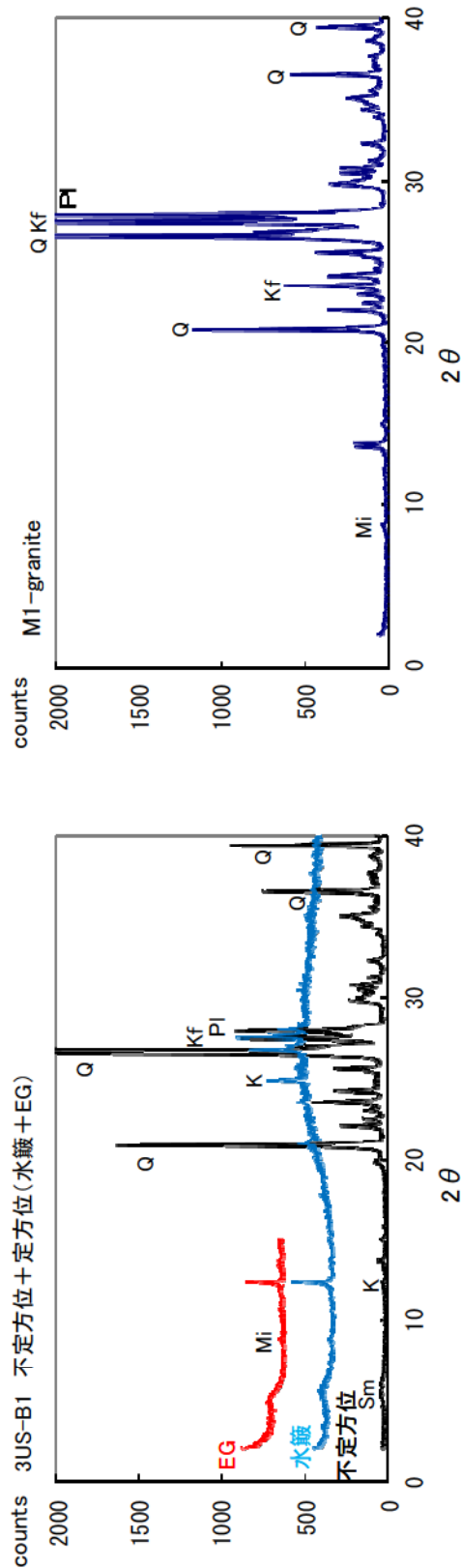
- ・最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達する。
- ・この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。

F-M3-9破碎帯 薄片観察結果(3US-B1破碎部) (3)



・最新面(面1)に沿って黒雲母の塑性変形が認められる。

F-M3-9破砕帯 XRD分析結果 (3US-B1破砕部)



3US-B1破砕部のチャート
水簾及びEG処理を施した試料の回折パターンは、見やすくするため
不定方位の回折パターンの上にずらして表示した。

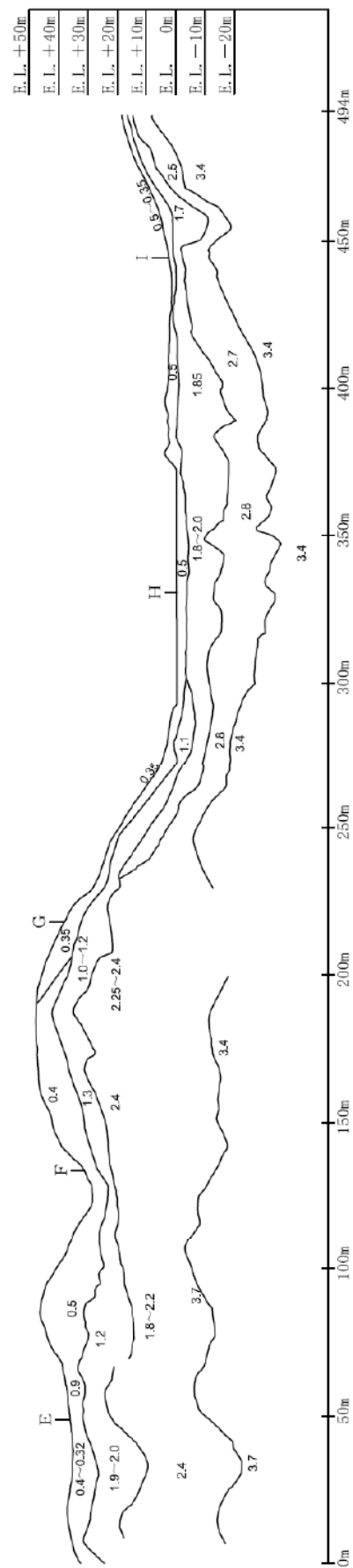
X線粉末回折結果					
破砕帯名	試料No.	スメクタイト	雲母粘土鉱物	カオリン鉱物	石英
F-M3-9	3US-B1	-	・	-	◎

凡例 ◎:多い ○:ある △:少ない -:疑わしい ・:水簾試料のみで確認
(基本は不定方位分析の回折線を使用)

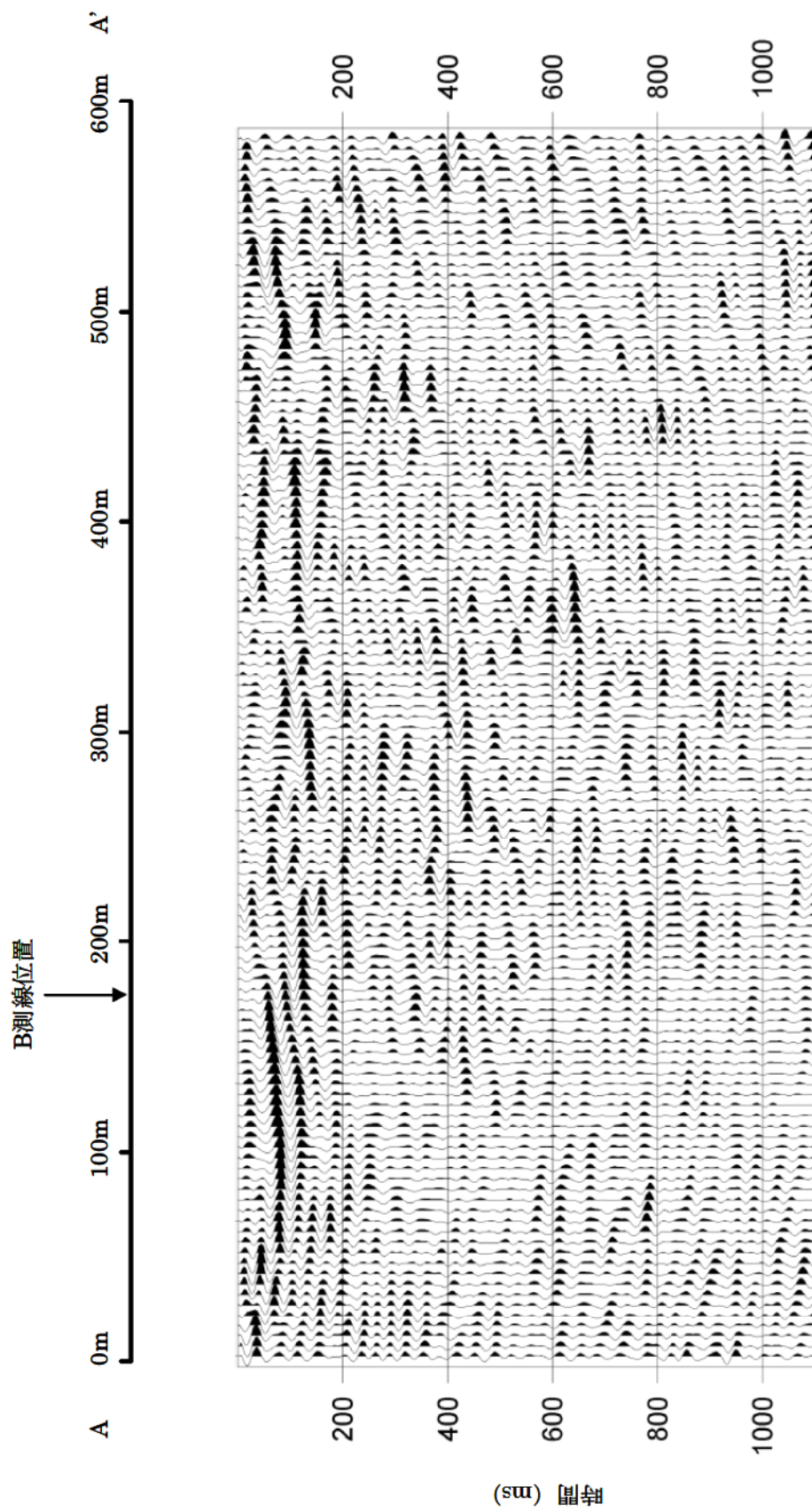
3US-B1破砕部は新鮮花崗岩に比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっている。
一方、3US-B1破砕部はスメクタイト、カオリン鉱物（雲母粘土鉱物は水簾でのみ確認）を生成している。
不定方位（水簾、EG）の結果からは、スメクタイト（001）面のピークが低角側（左側）に移動しており、スメクタイトは識別できる。
よって、3US-B1破砕部は熱水変質作用を受けていると判断される。

C—C’

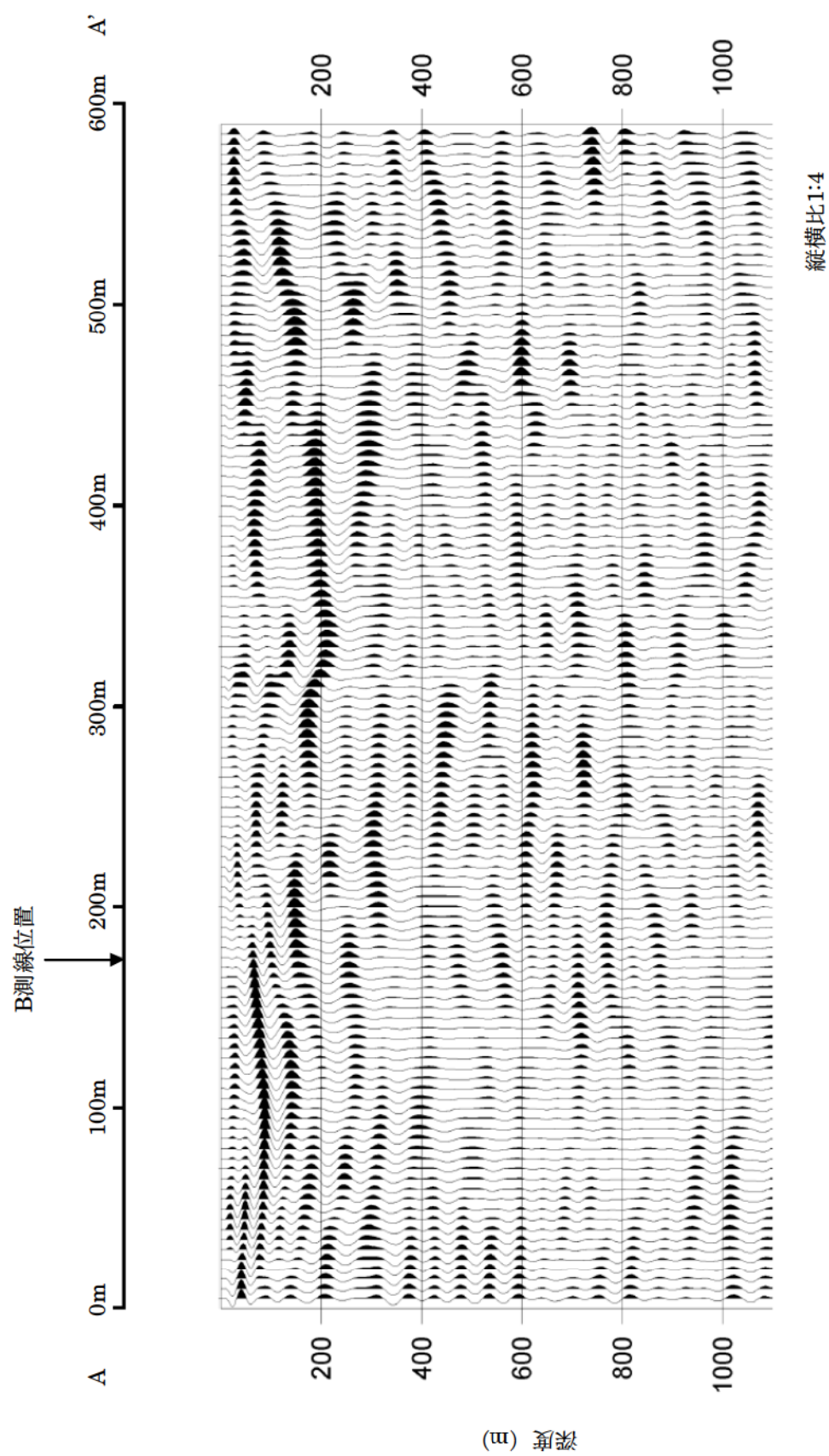
单位：km/s



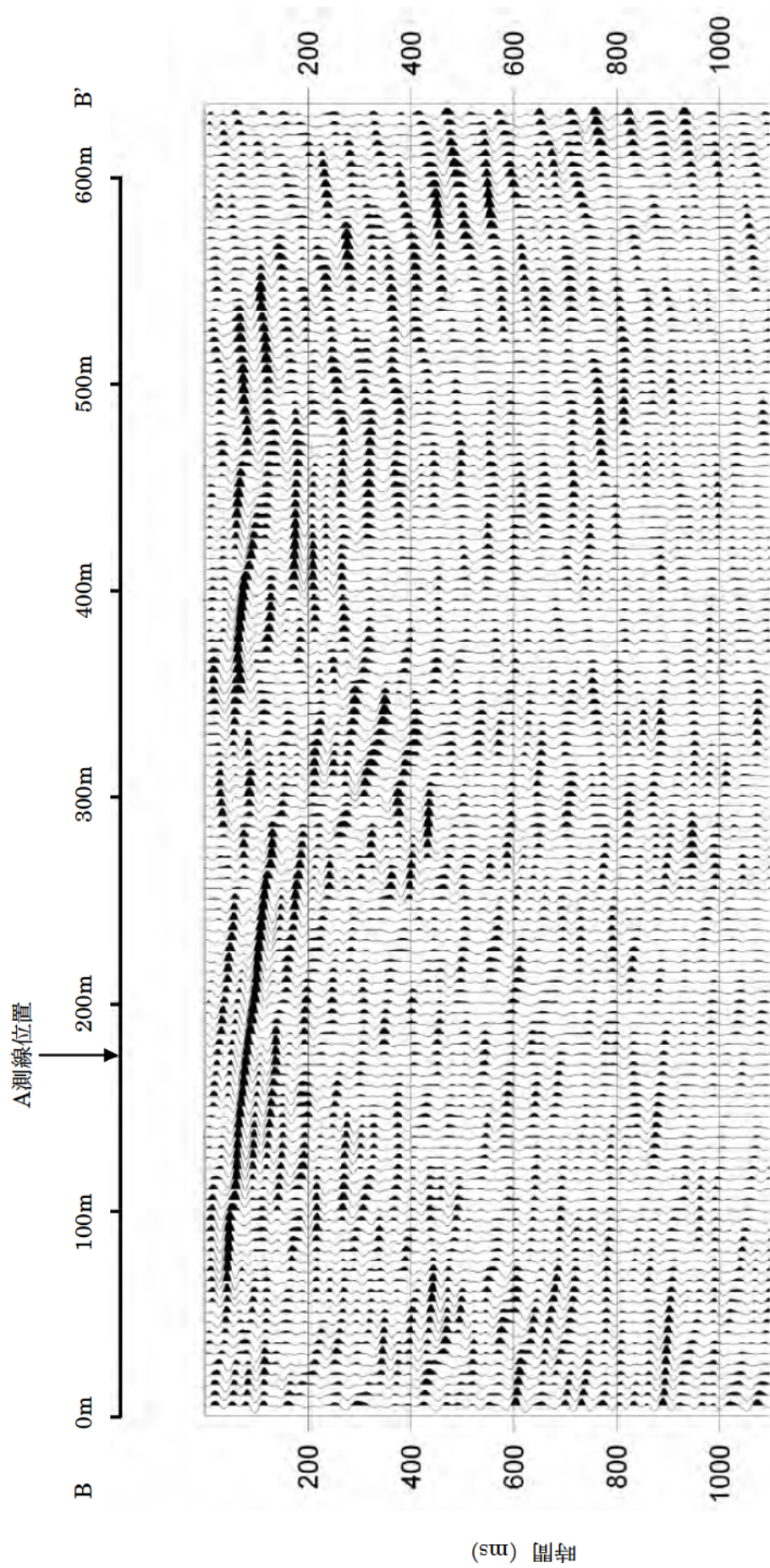
第1.6.99图 地表弹性波探查铅直断面图 (C—C’)



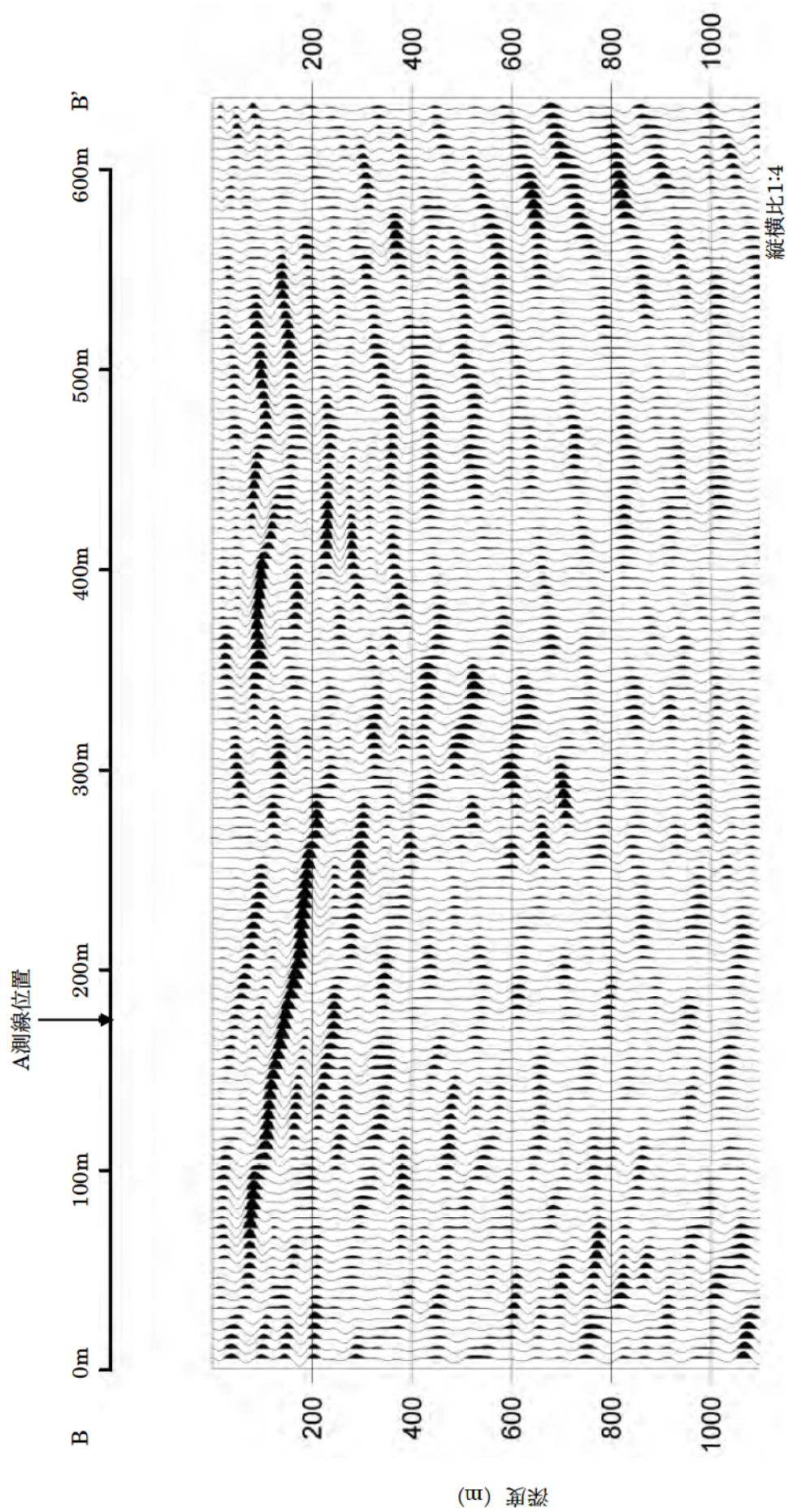
第 1.6.100 図 (1) 反射法地震探査結果 (A 測線 時間断面)



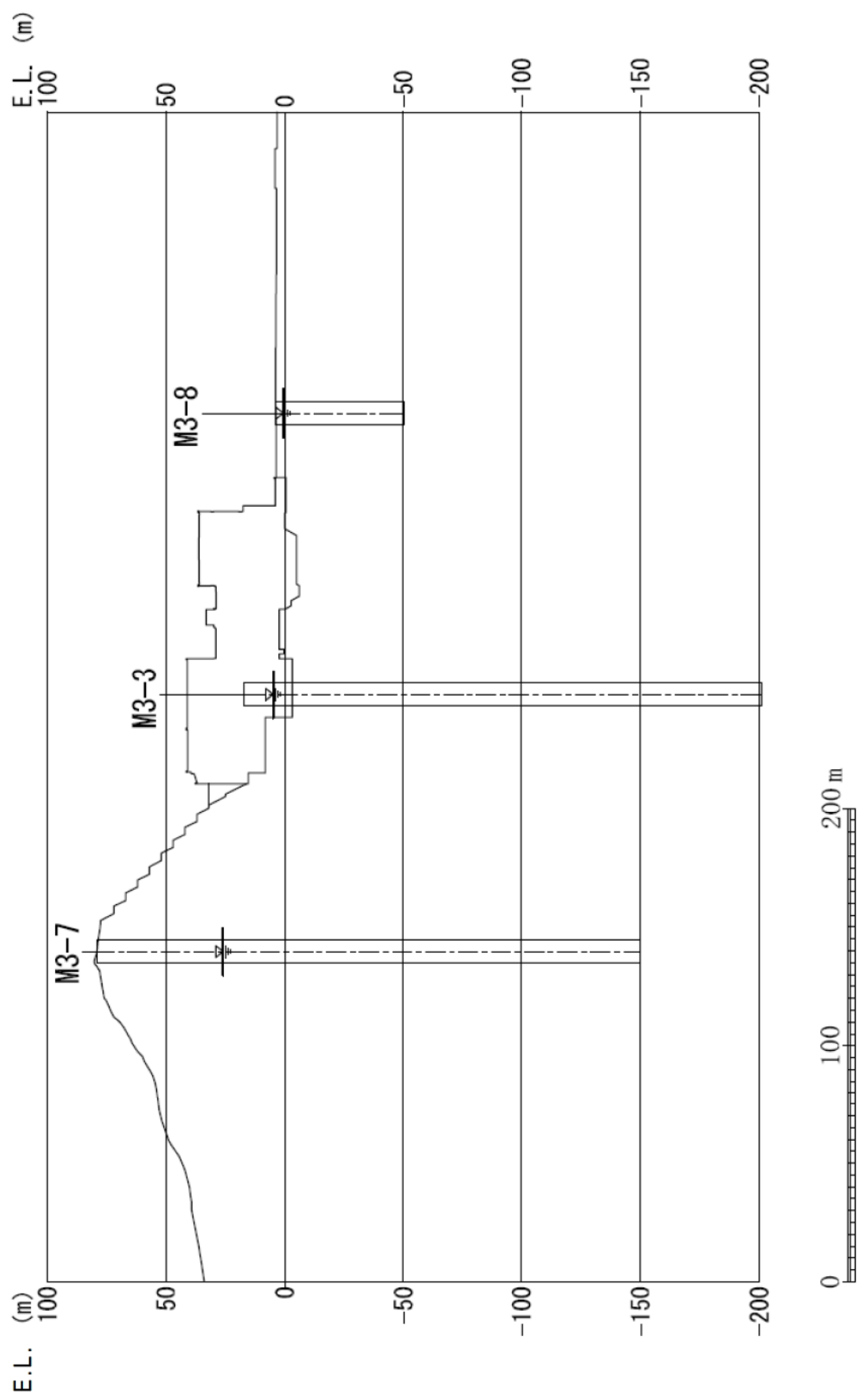
第 1. 6. 100 図 (2) 反射法地震探査結果 (A 測線 深度断面)



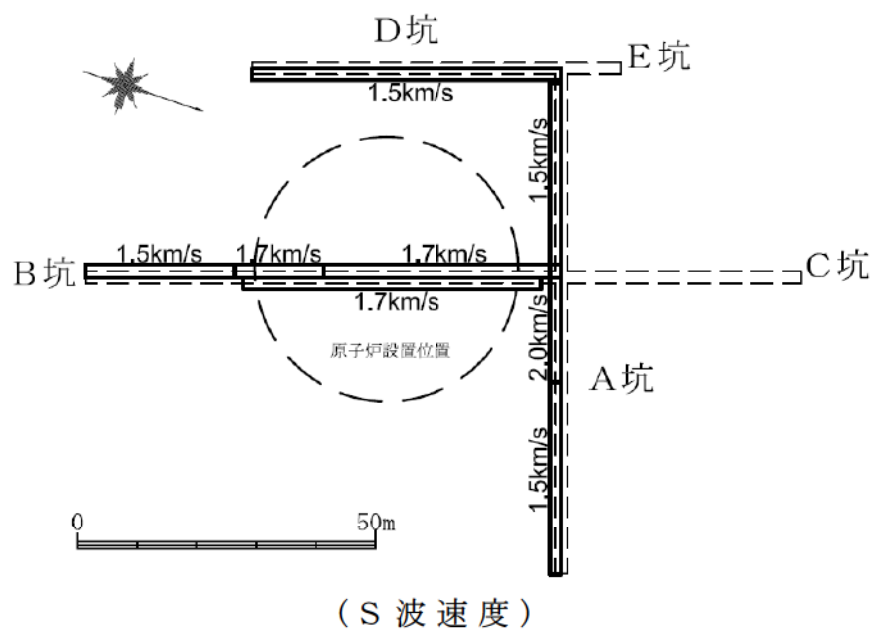
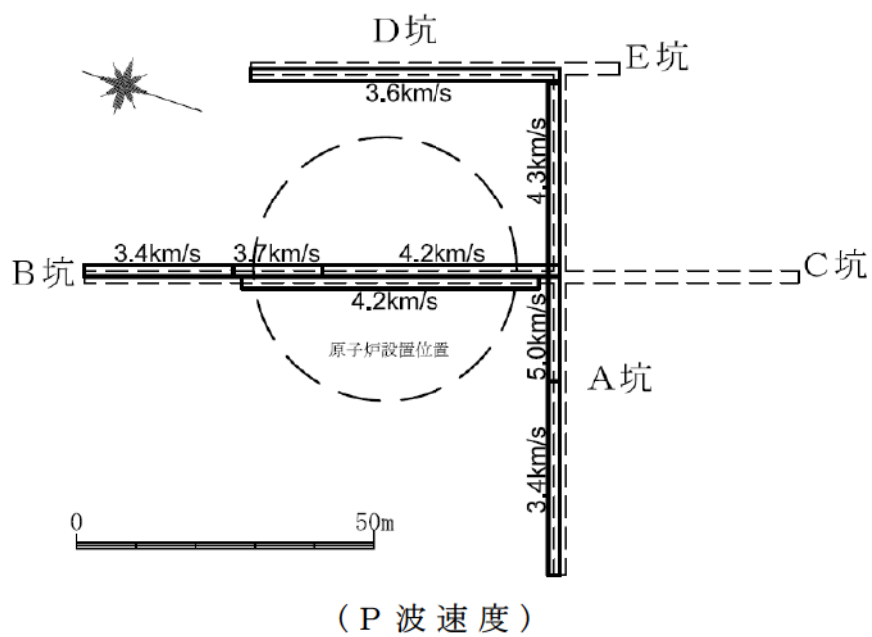
第 1.6.100 図 (3) 反射法地震探査結果 (B 測線 時間断面)



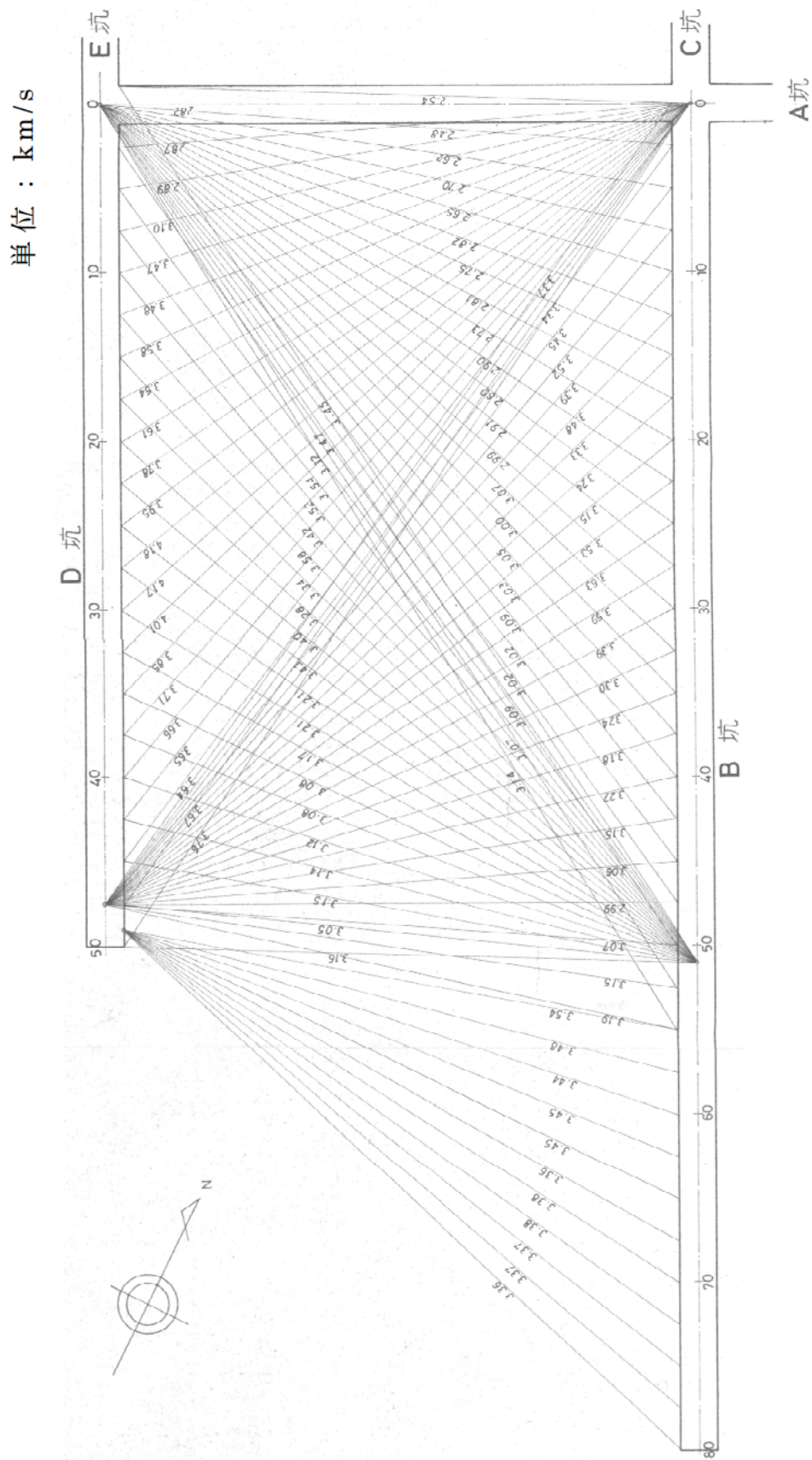
第 1. 6. 100 図 (4) 反射法地震探査結果 (B 測線 深度断面)



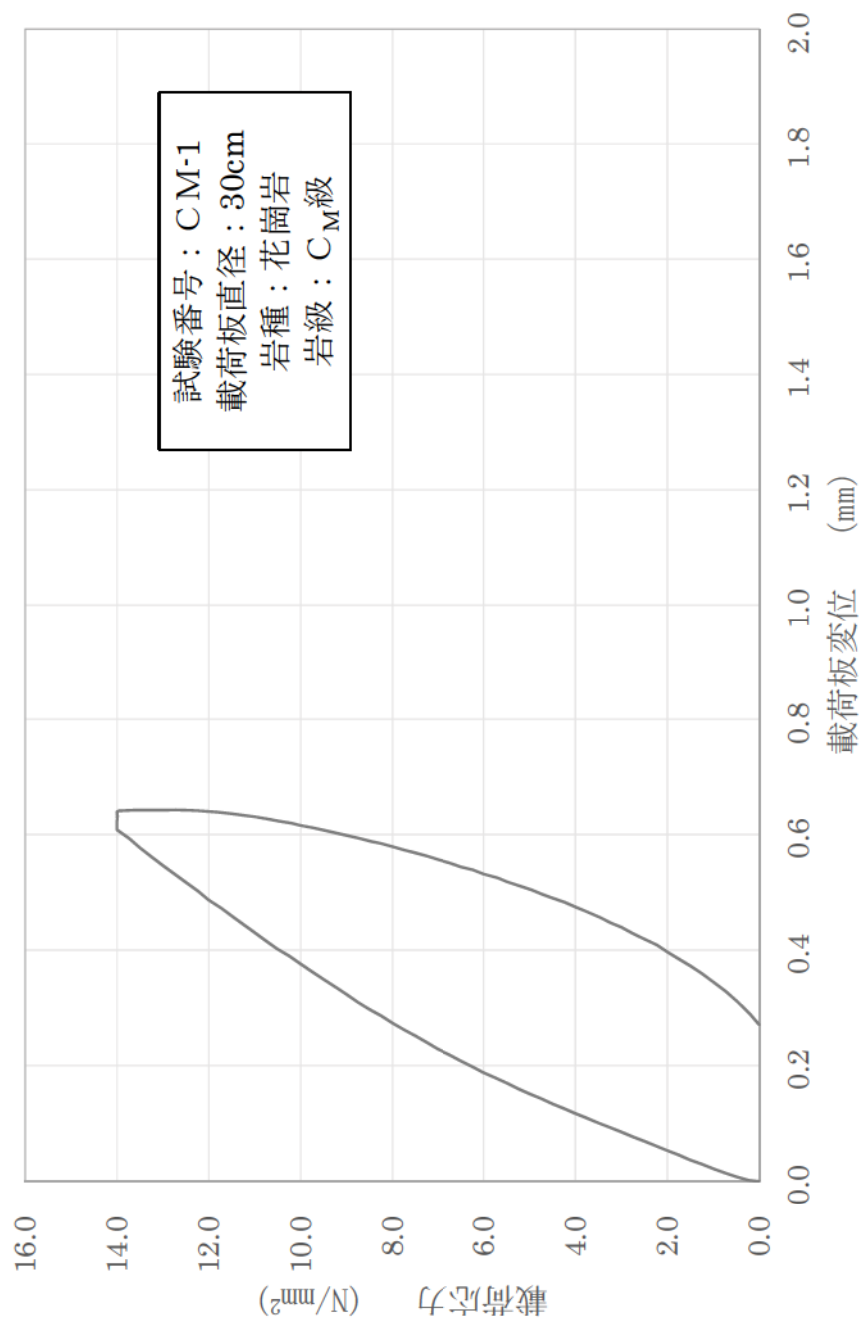
第 1.6.101 図 ボーリング孔内水位図



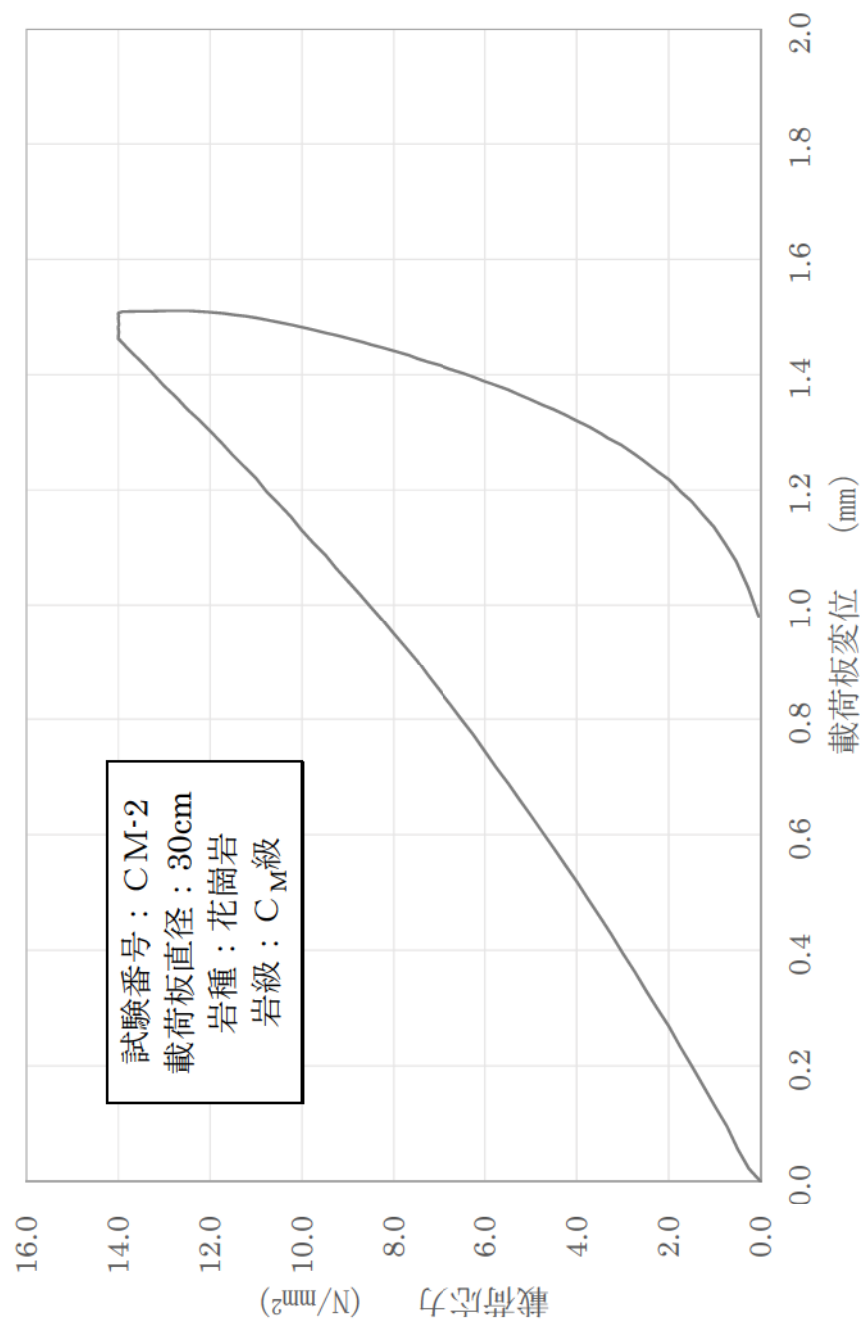
第 1.6.102 図 縦波 (P 波) ・ 横波 (S 波) 速度図



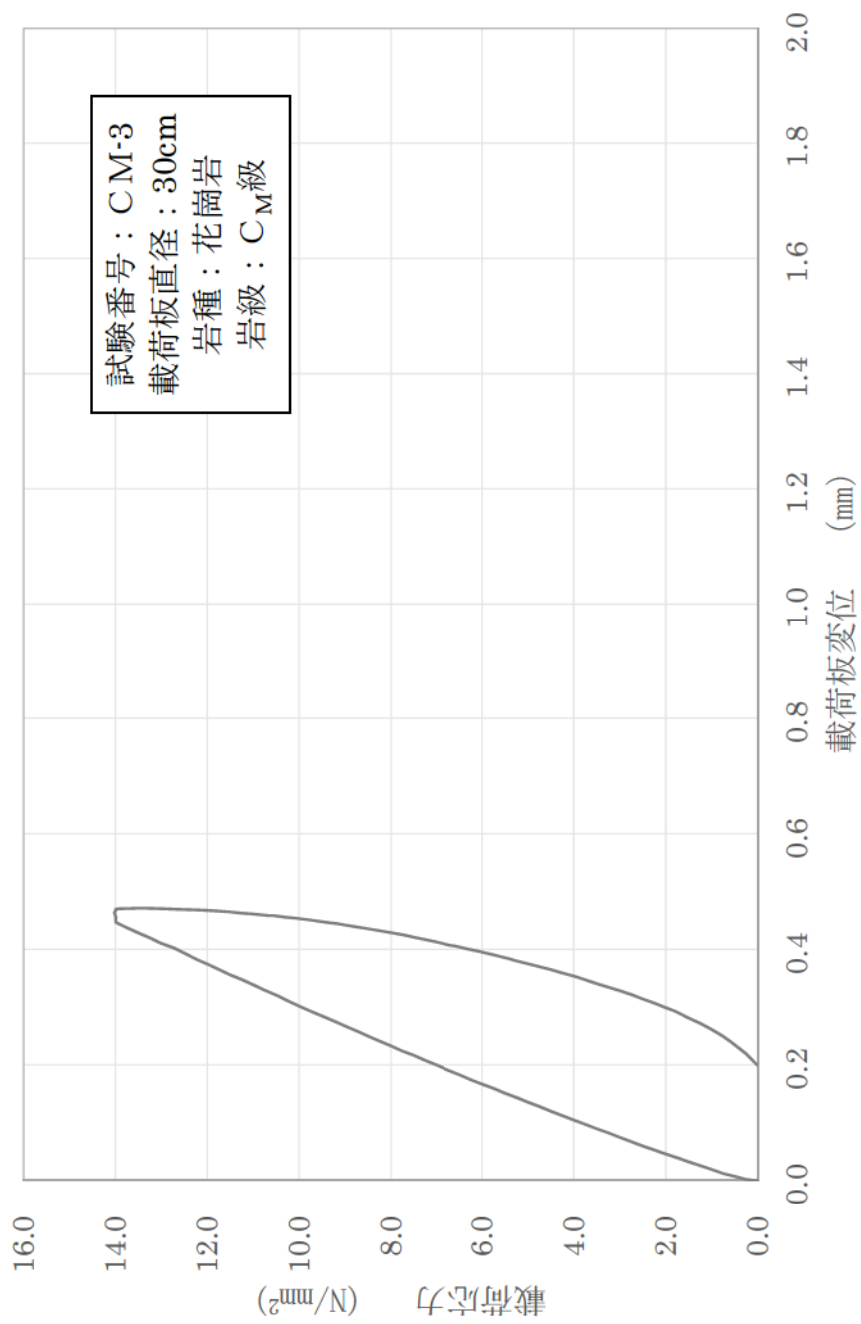
第1.6.103図 坑間縦波 (P波) 速度図



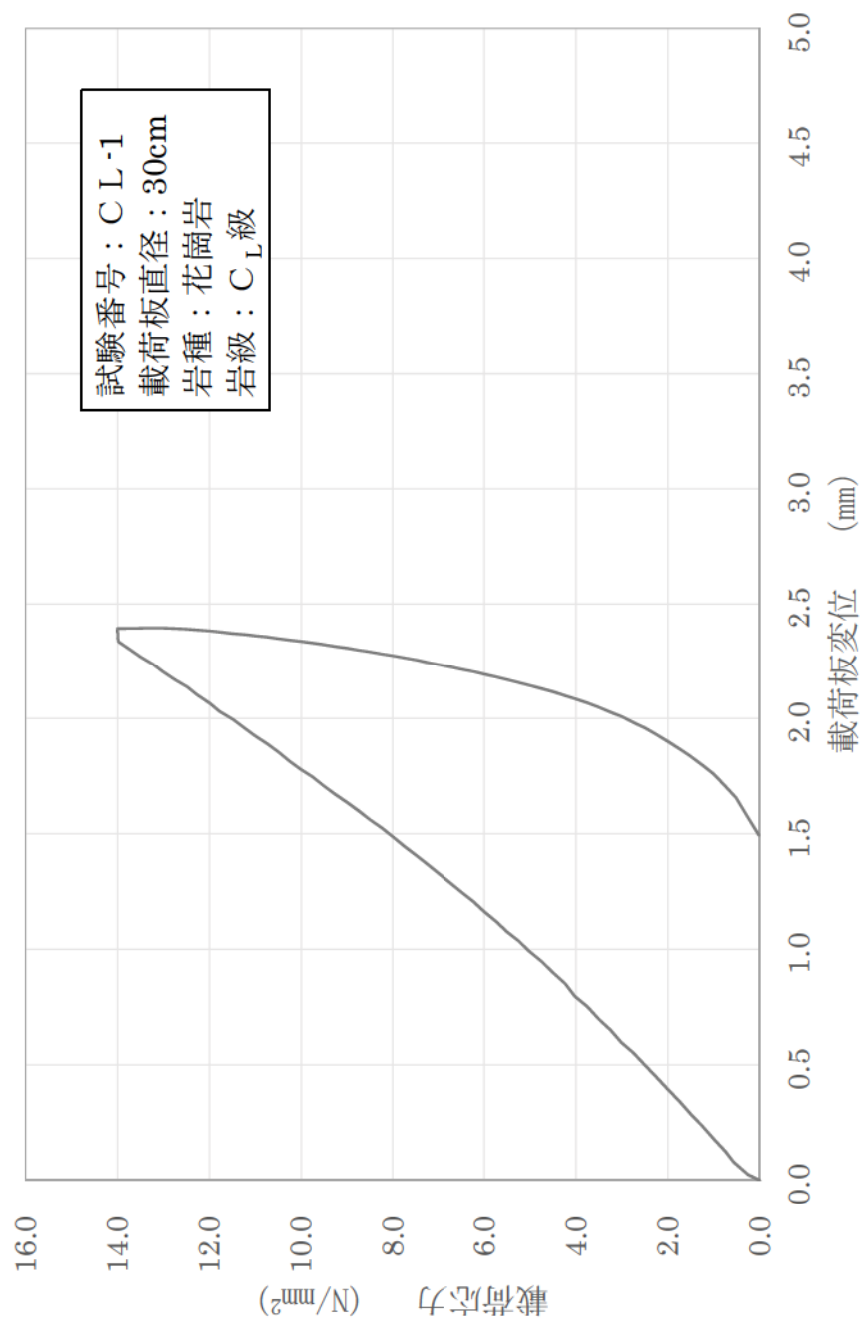
第1.6.104図(1) 支持力試験 荷重－変位曲線（その1）



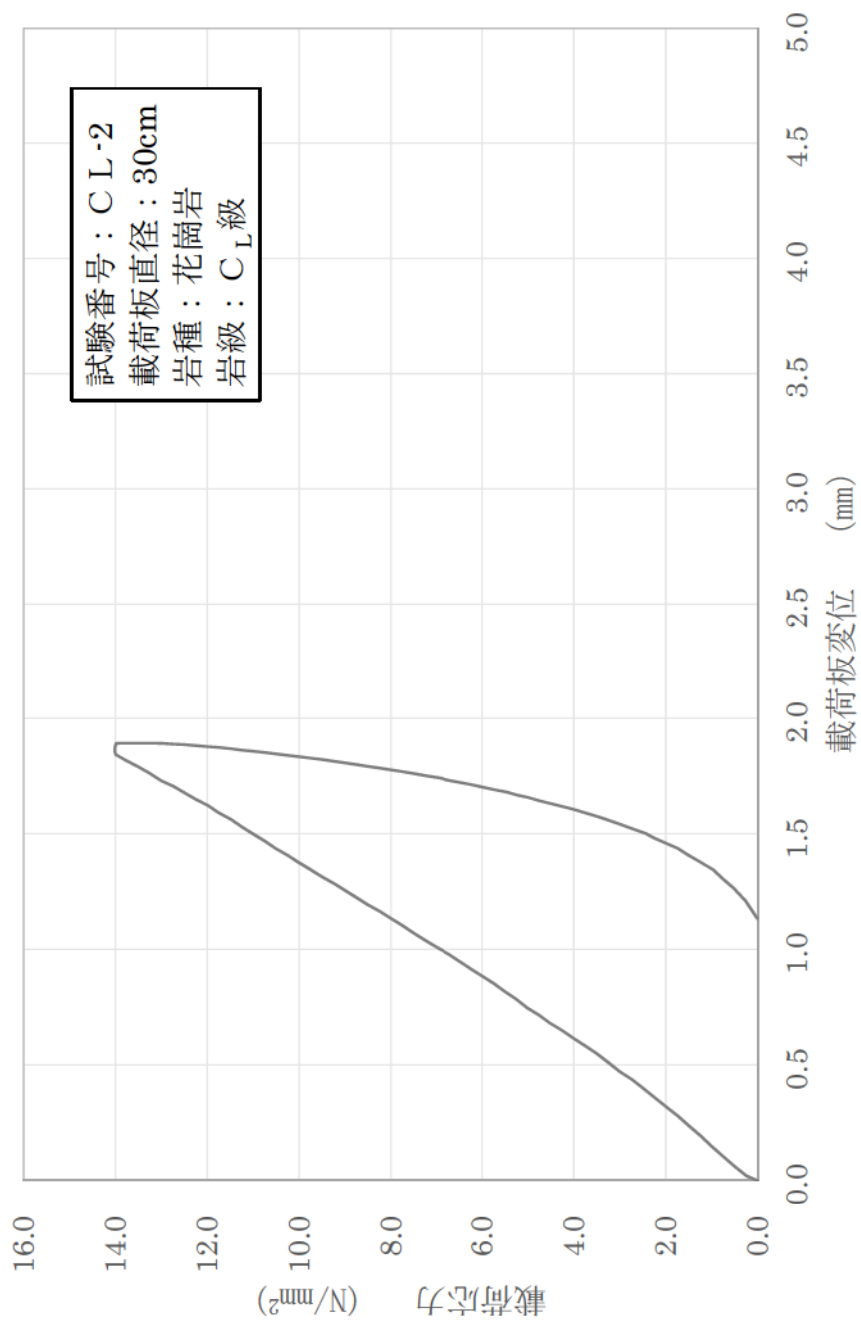
第 1.6.104 図 (2) 支持力試験 荷重－変位曲線 (その 2)



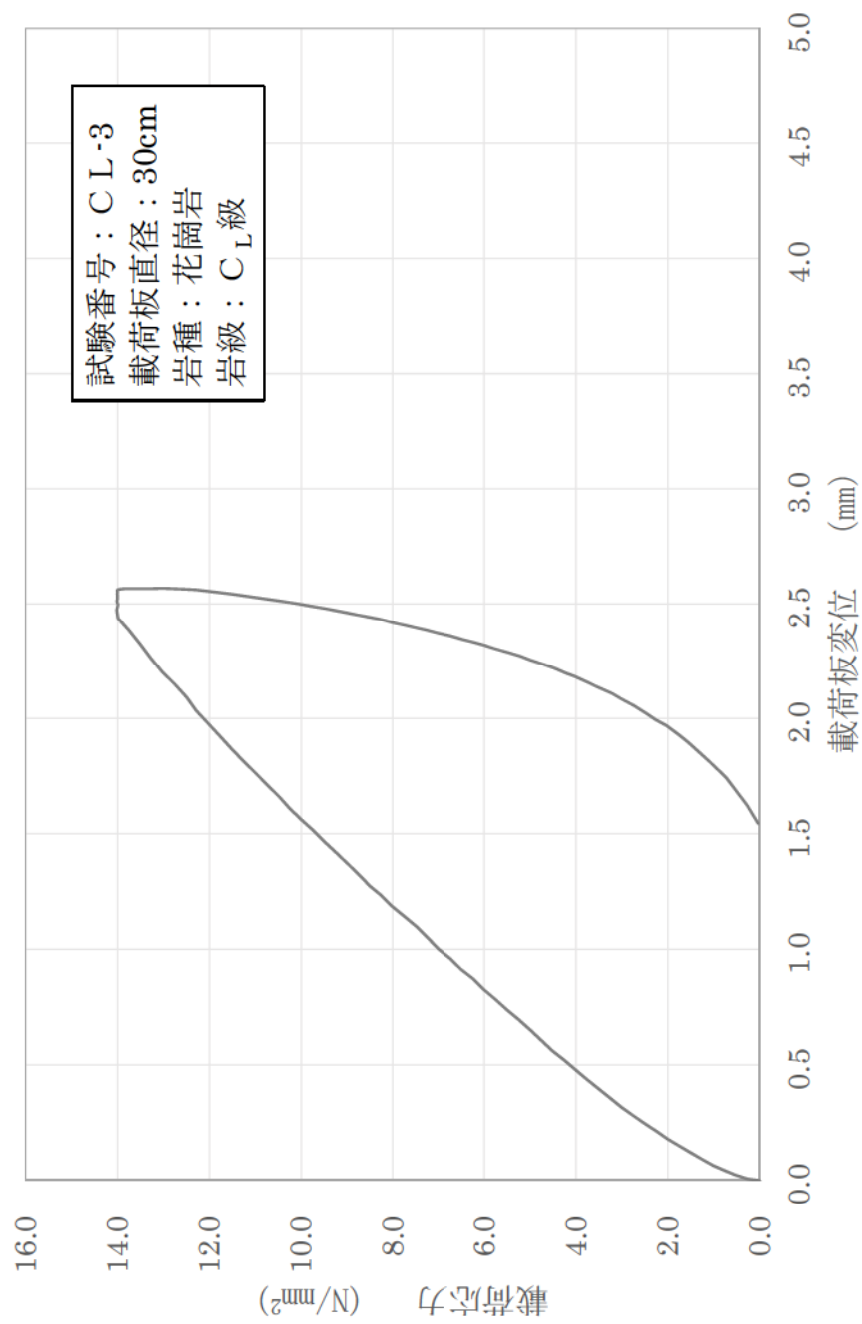
第1.6.104図(3) 支持力試験 荷重－変位曲線（その3）



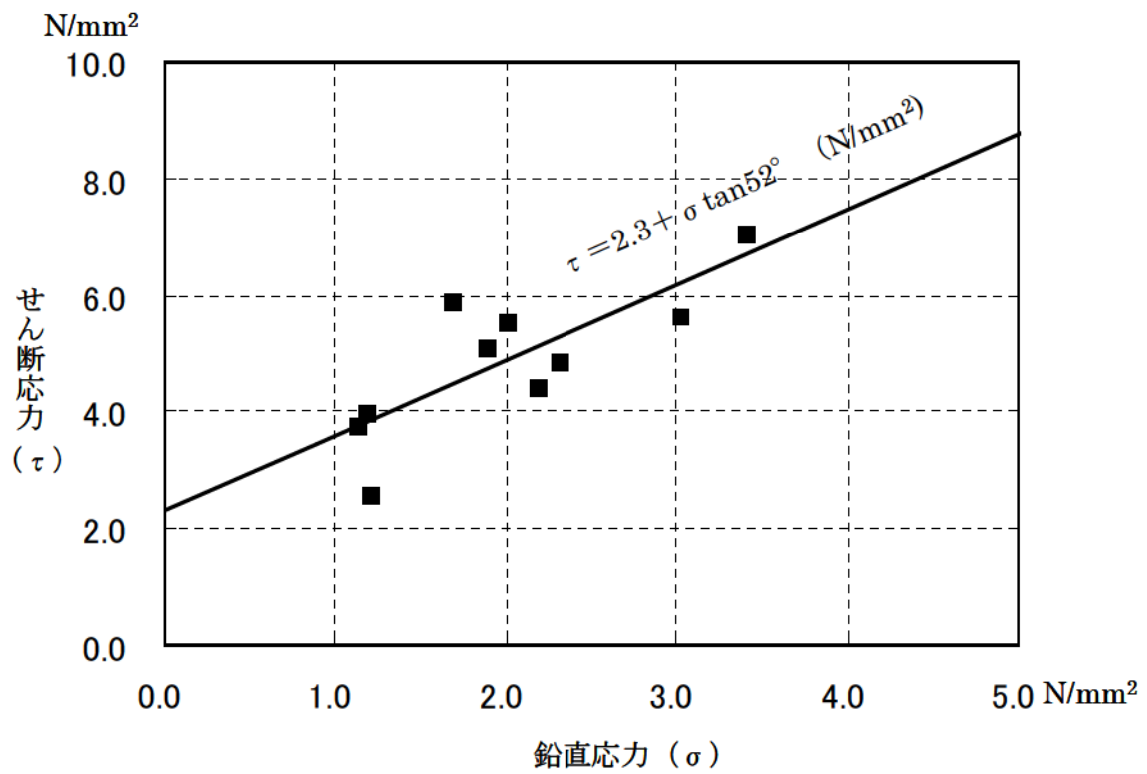
第1.6.104図(4) 支持力試験 荷重－変位曲線（その4）



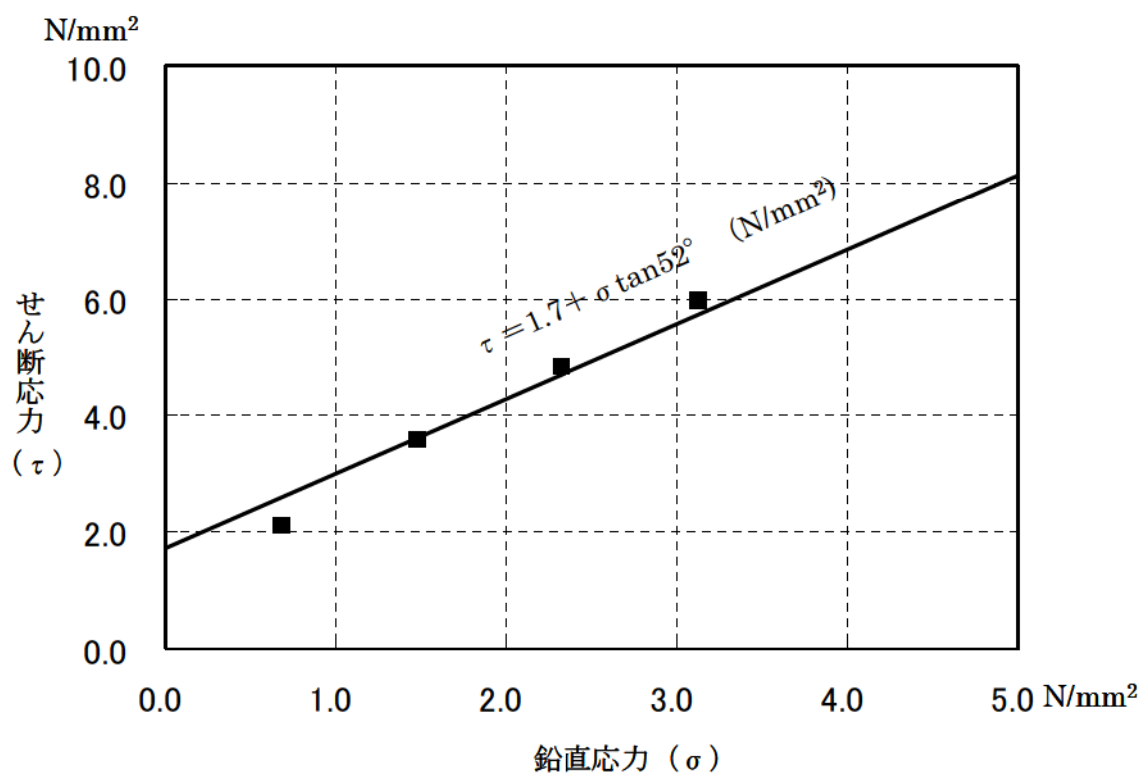
第1.6.104図(5) 支持力試験 荷重－変位曲線 (その5)



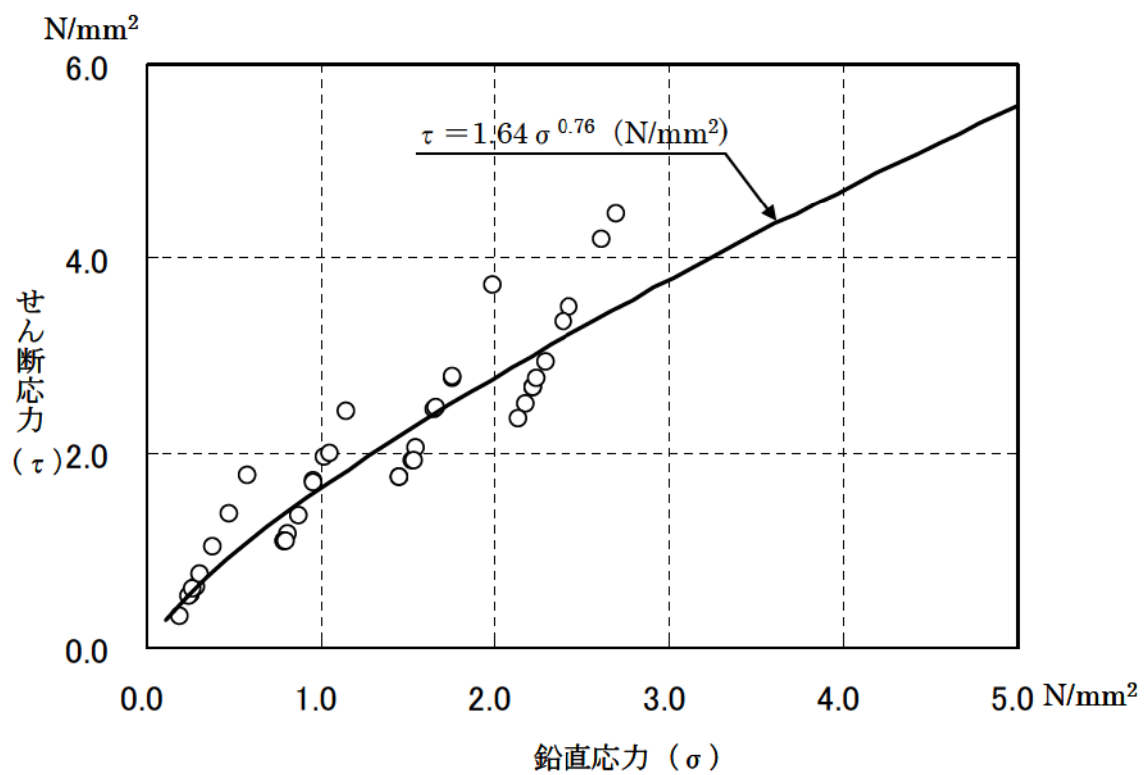
第1.6.104図(6) 支持力試験 荷重－変位曲線（その6）



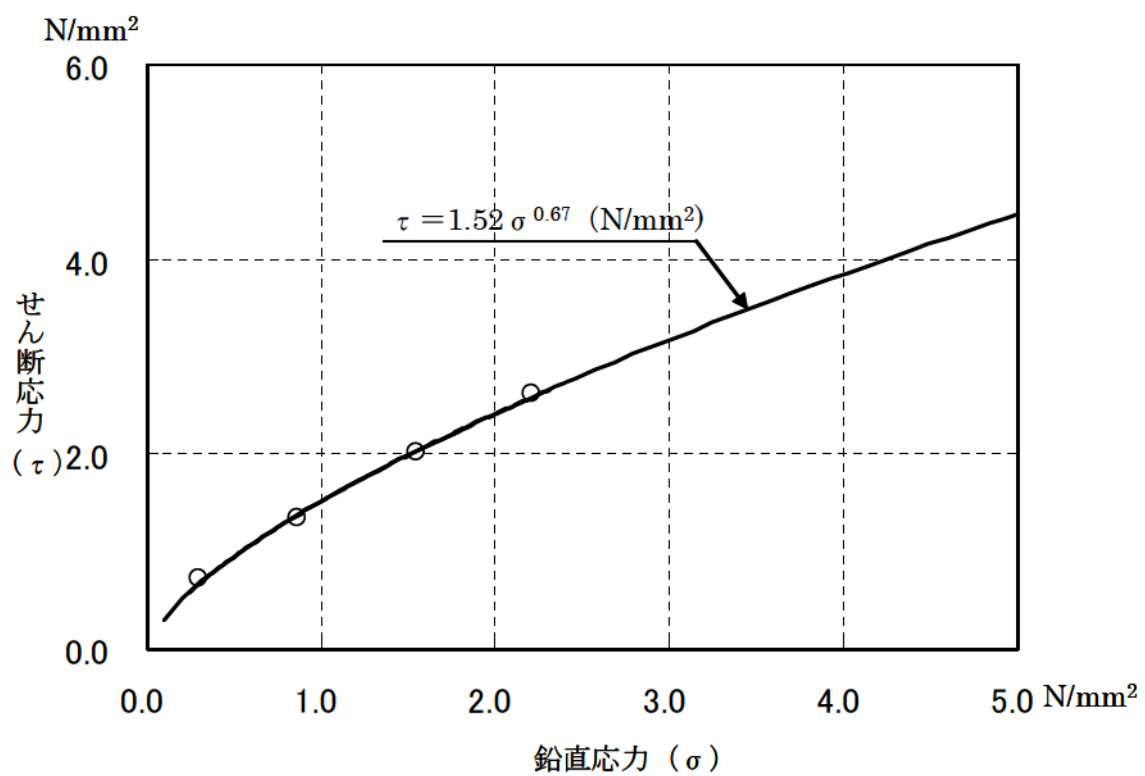
第 1.6.105 図 ロックせん断試験結果 ([C_M] 級 せん断強度)



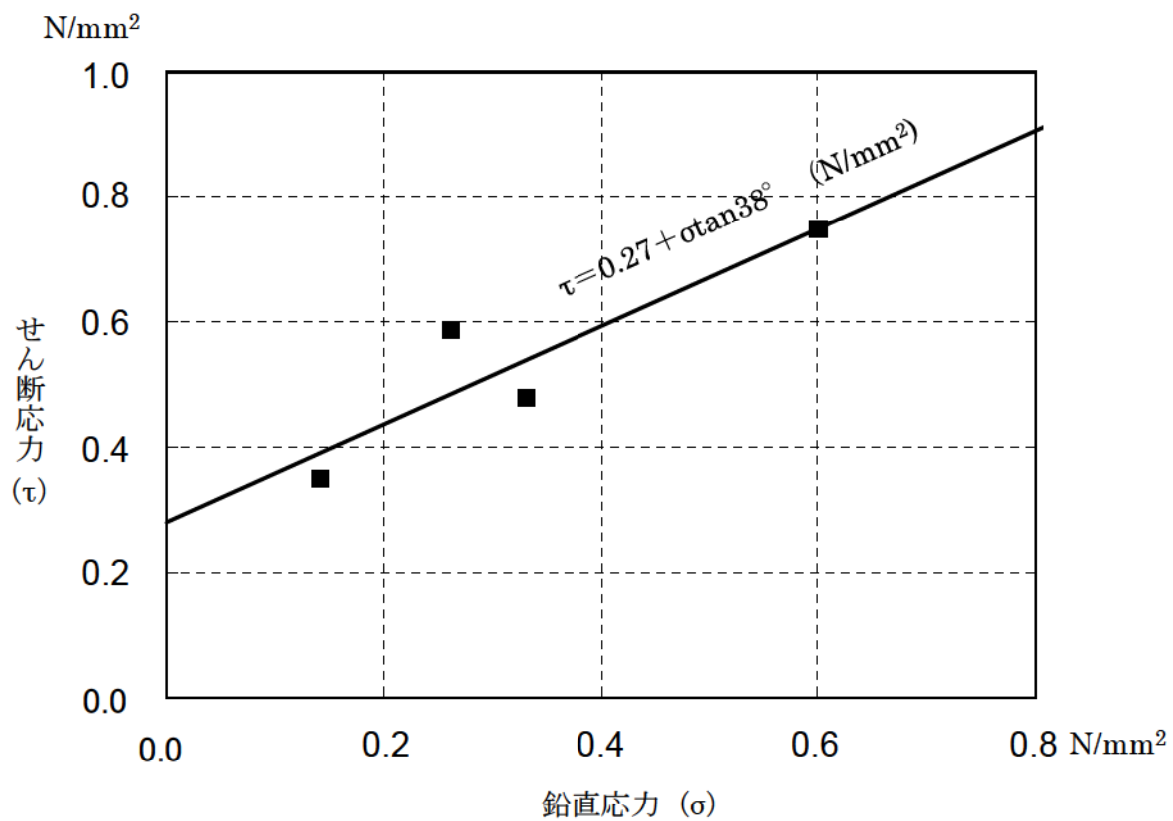
第1.6.106図 ロックせん断試験結果 ([C_L] 級 せん断強度)



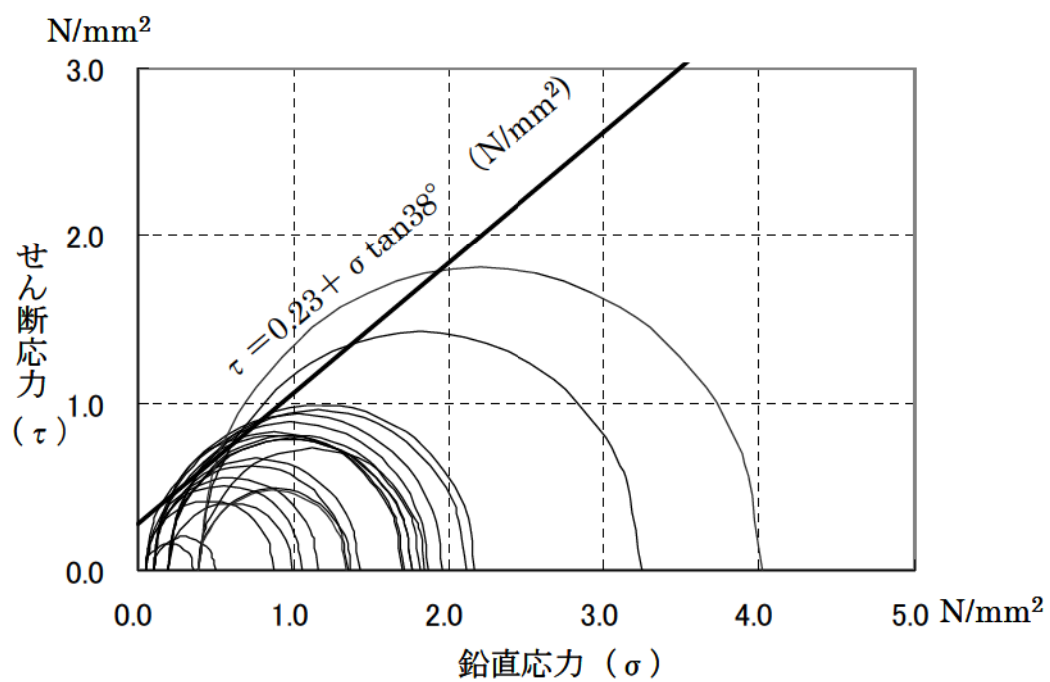
第 1.6.107 図 ロックせん断試験結果 ([C_M] 級 残留強度)



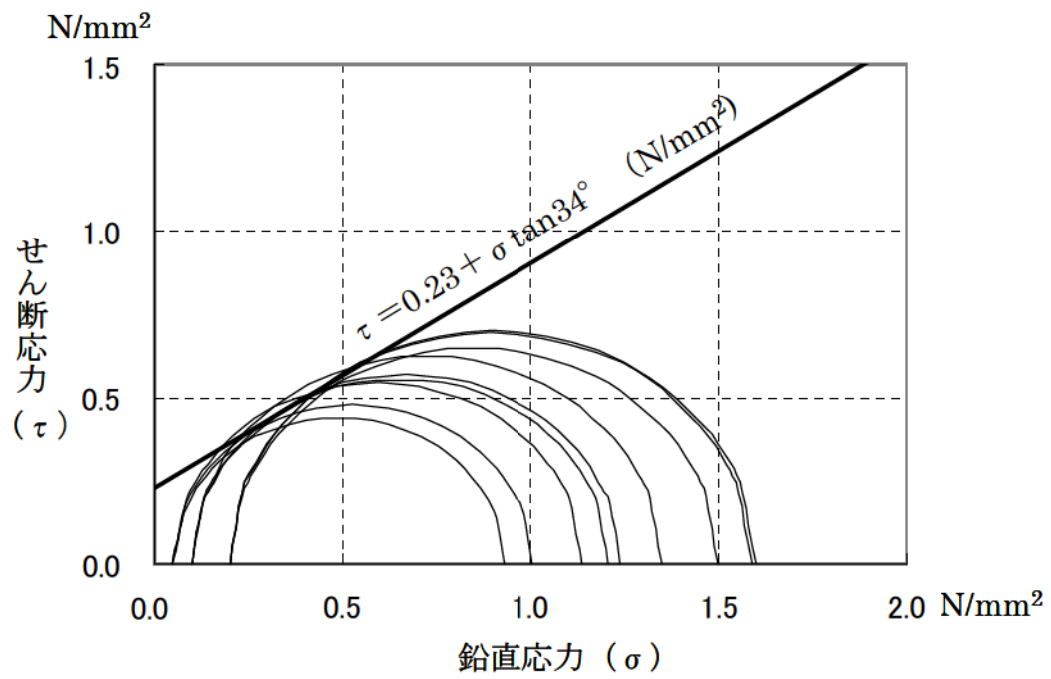
第 1.6.108 図 ロックせん断試験結果 ([C_L] 級 残留強度)



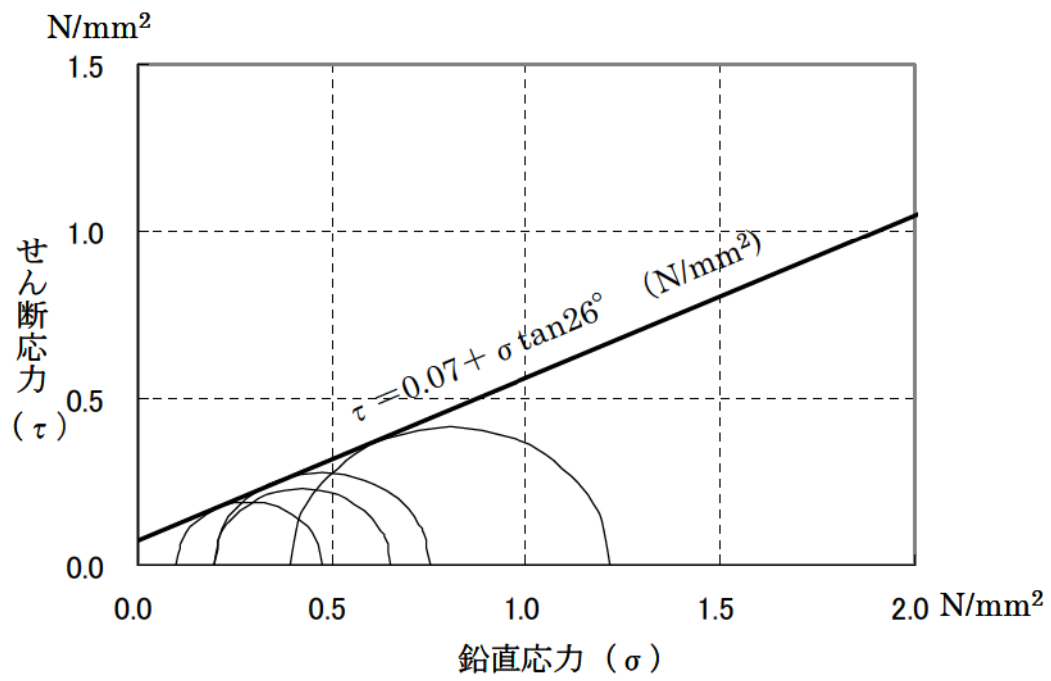
第1.6.109図 ブロックせん断試験結果（〔D〕級 せん断強度）



第 1.6.110 図 三軸圧縮試験結果（〔D〕級 残留強度）

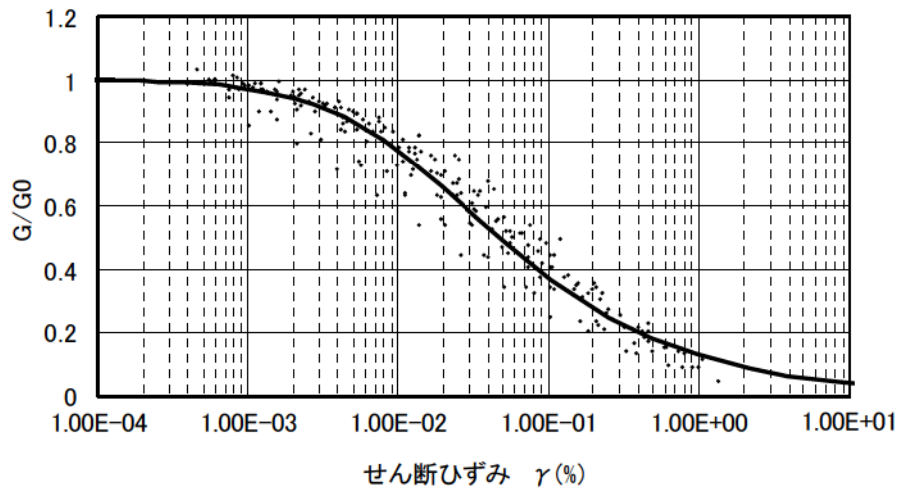


第 1.6.111 図 三軸圧縮試験結果（堆積層 せん断強度）

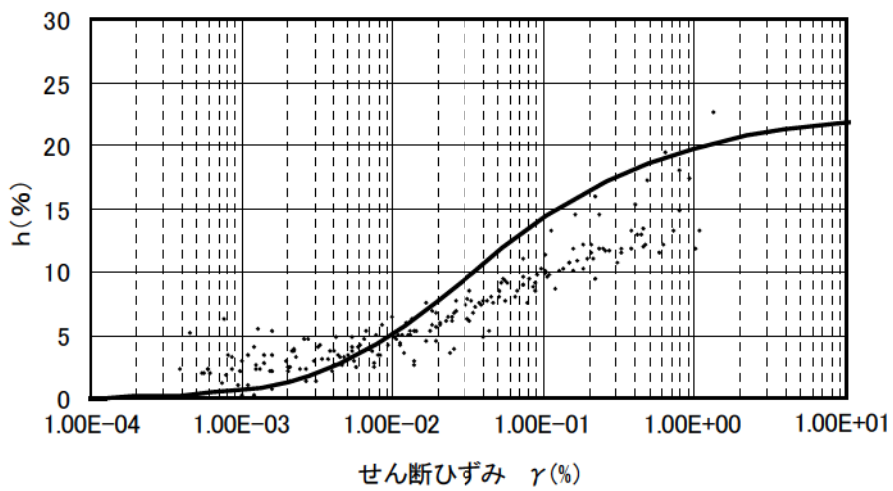


第 1.6.112 図 三軸圧縮試験結果（破砕帯 せん断強度）

せん断弾性係数

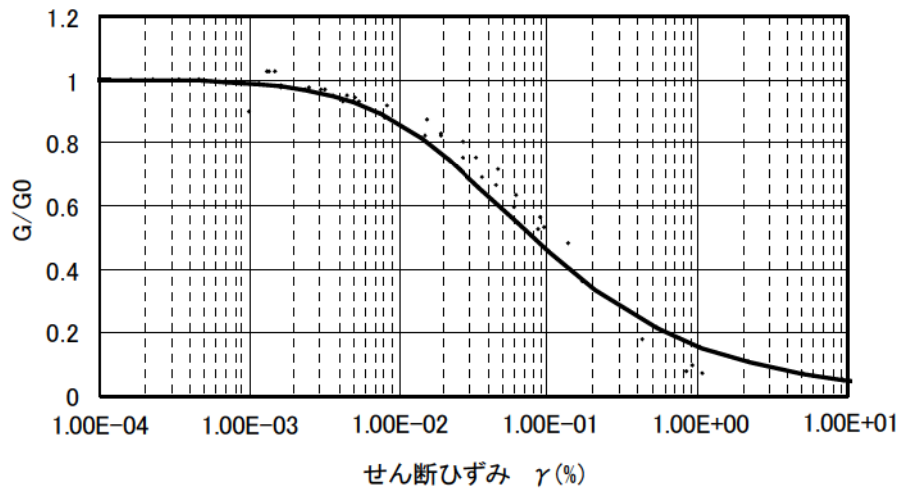


減衰定数

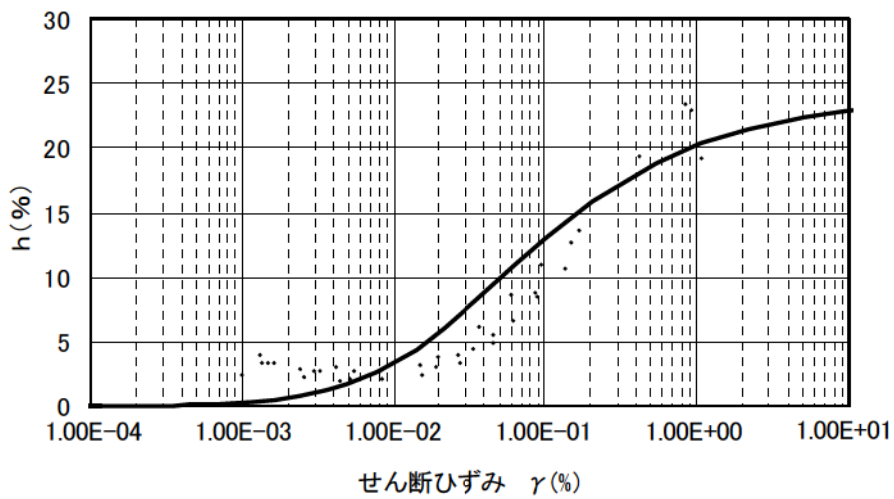


第 1.6.113 図 繰返し三軸試験結果（〔D〕級）

せん断弾性係数

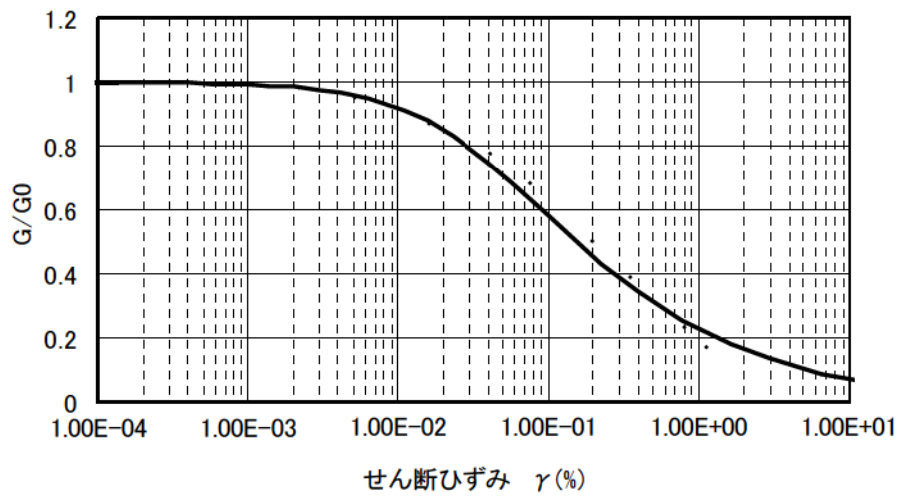


減衰定数

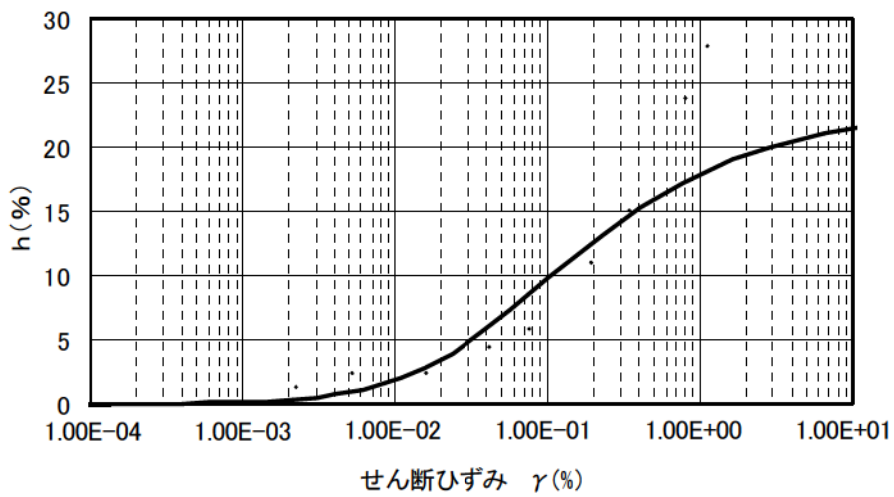


第1.6.114図 繰返し三軸試験結果（土質材料）

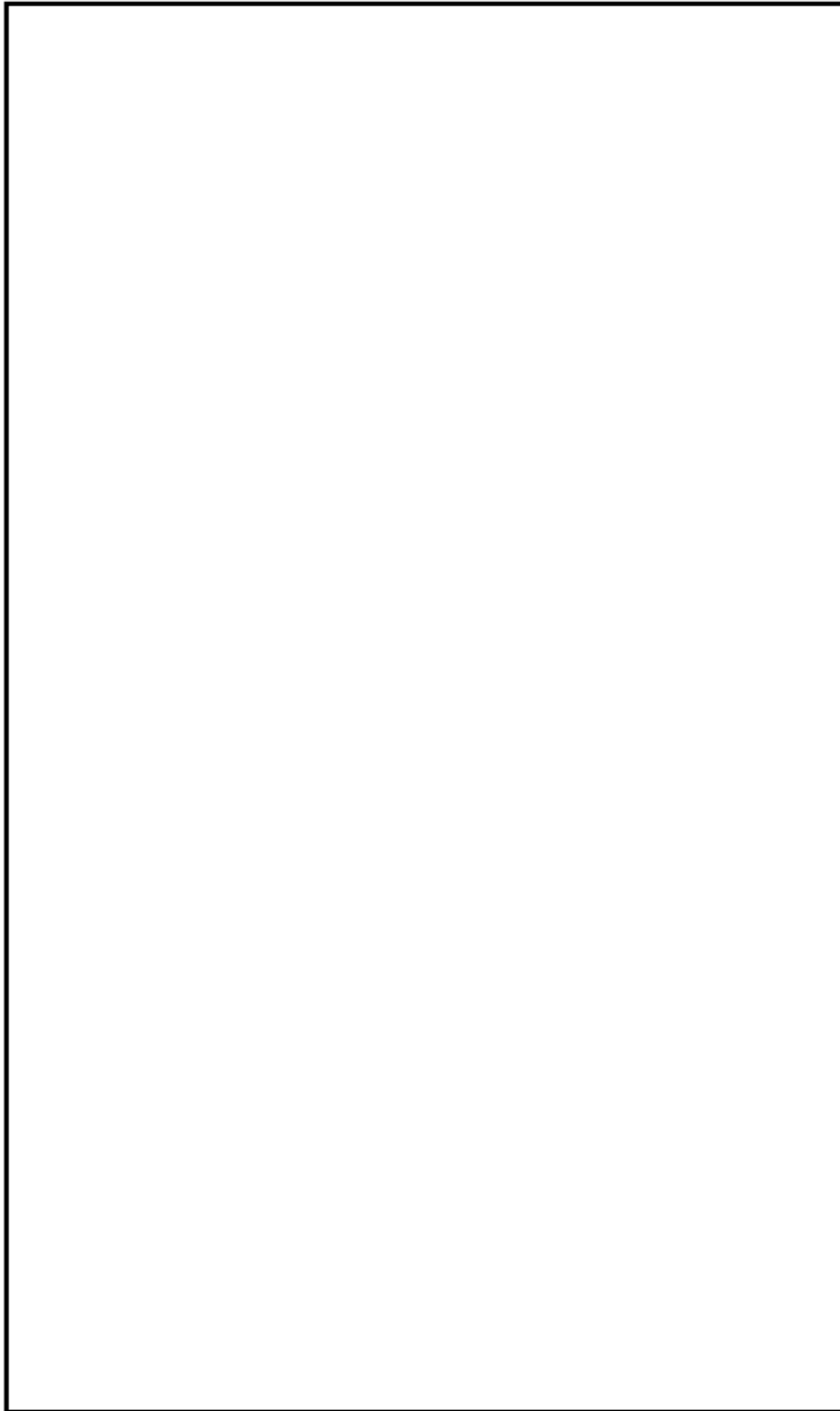
せん断弾性係数



減衰定数

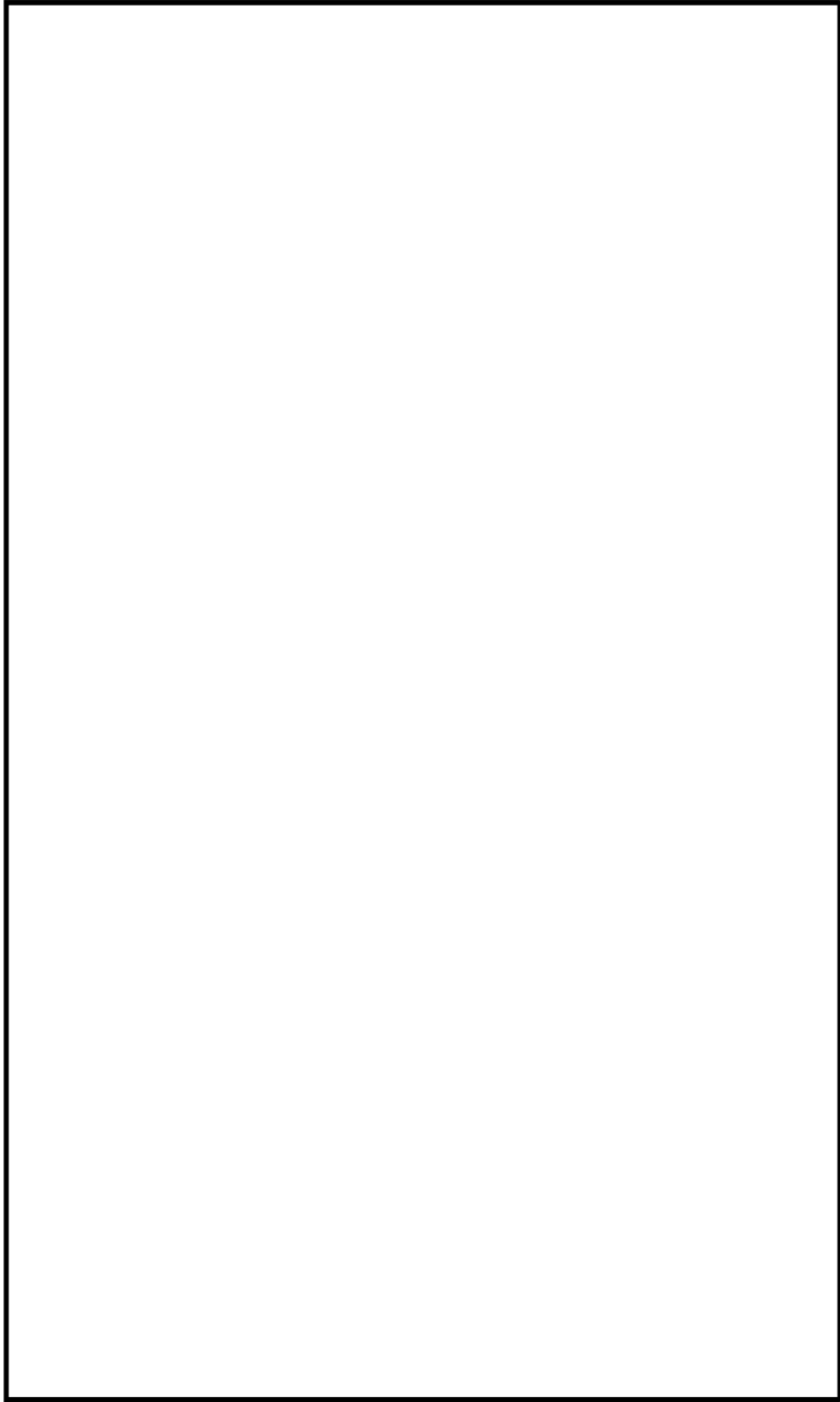


第 1.6.115 図 動的単純せん断試験結果（破碎帯）



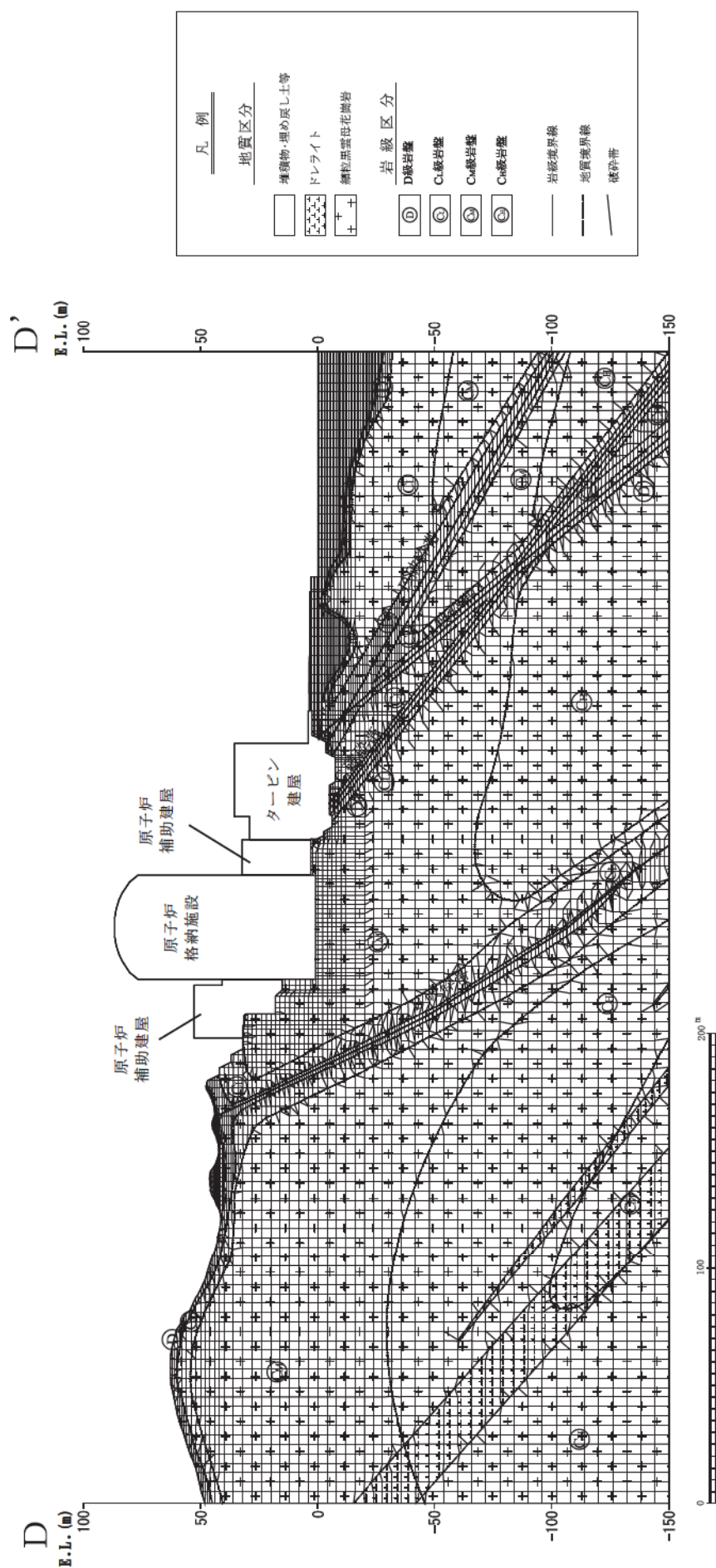
枠内の内容は機密に係る事項のため公開できません。

第1.7.1図 耐震重要施設及び常設重大事故等対処施設の配置並びに解析断面位置図

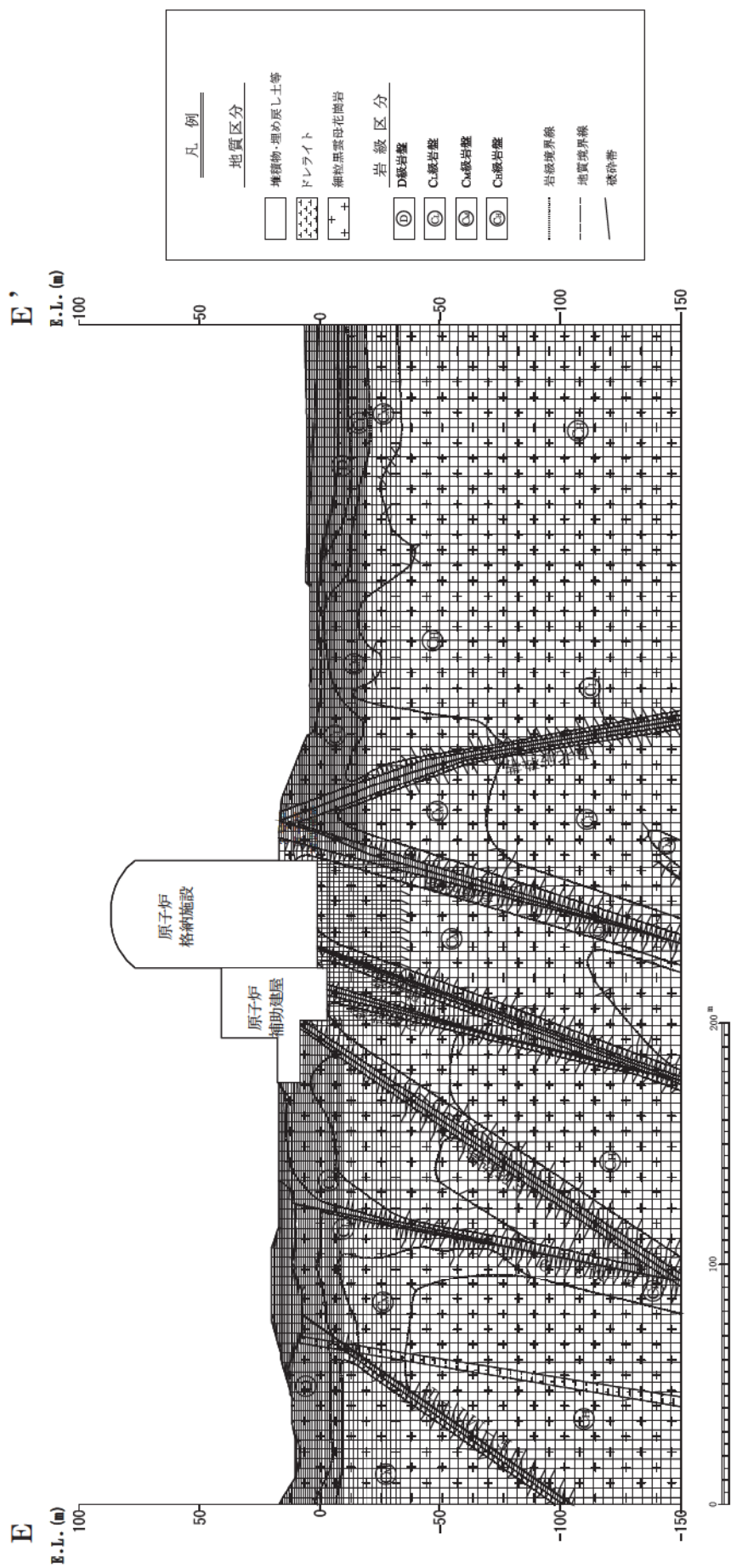


枠内の内容は機密に係る事項のため公開できません。

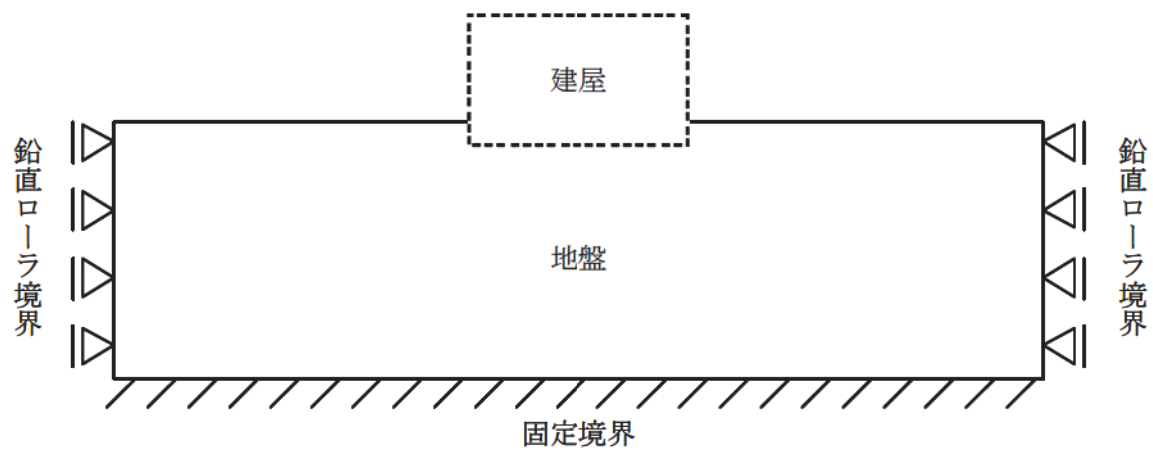
第1.7.2図 評価対象施設及び評価対象断面の位置図



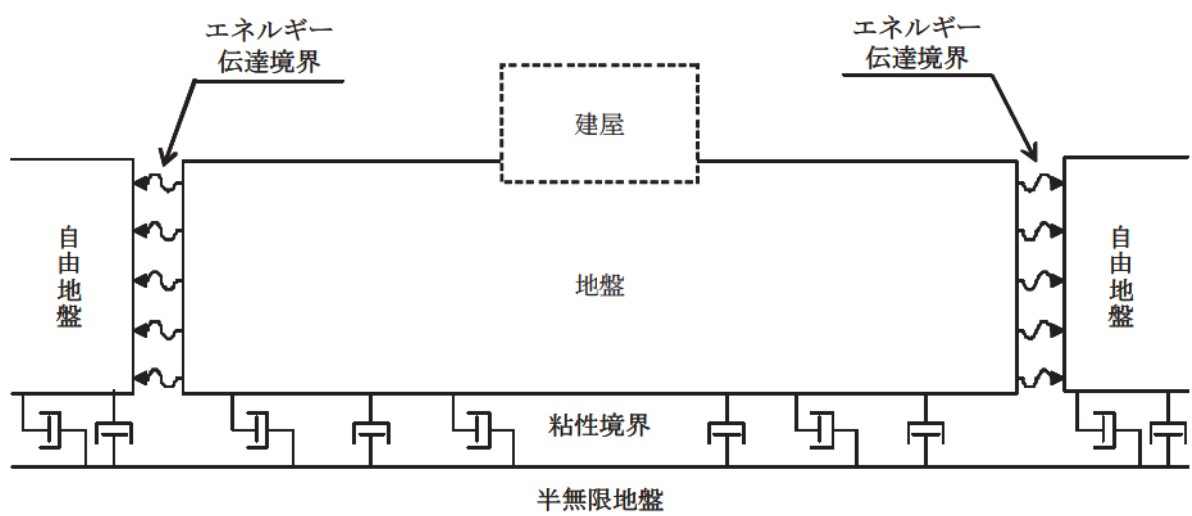
第 1.7.3 図 解析用要素分割図 (D - D')



第 1.7.4 図 解析用要素分割図 (E-E')

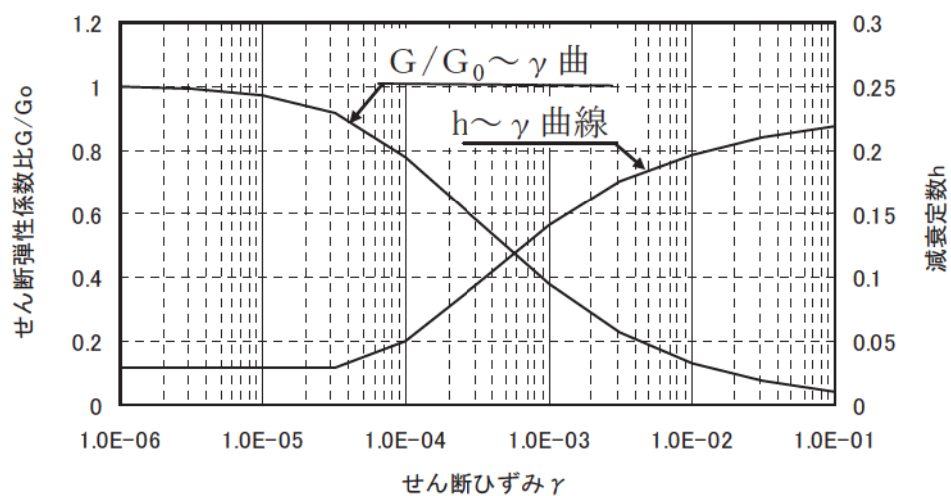


静的解析時

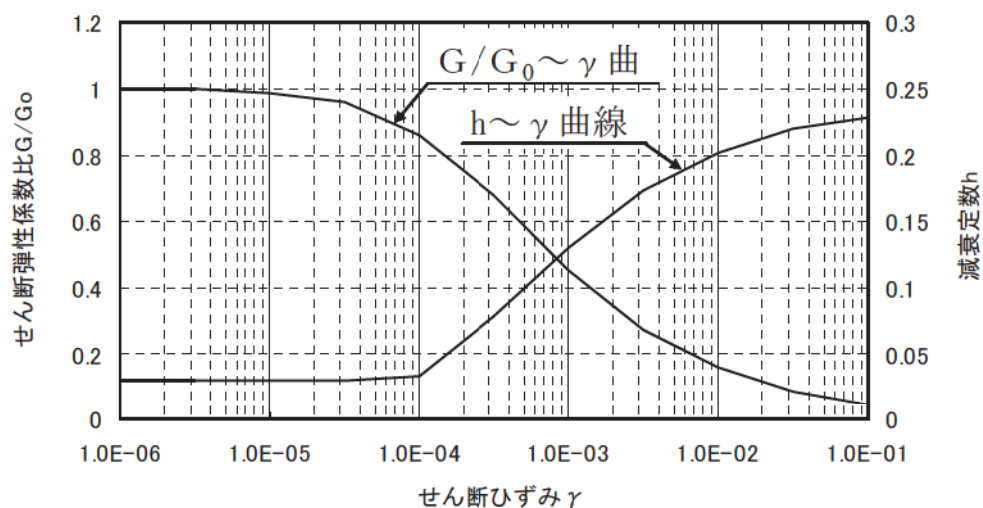


動的解析時

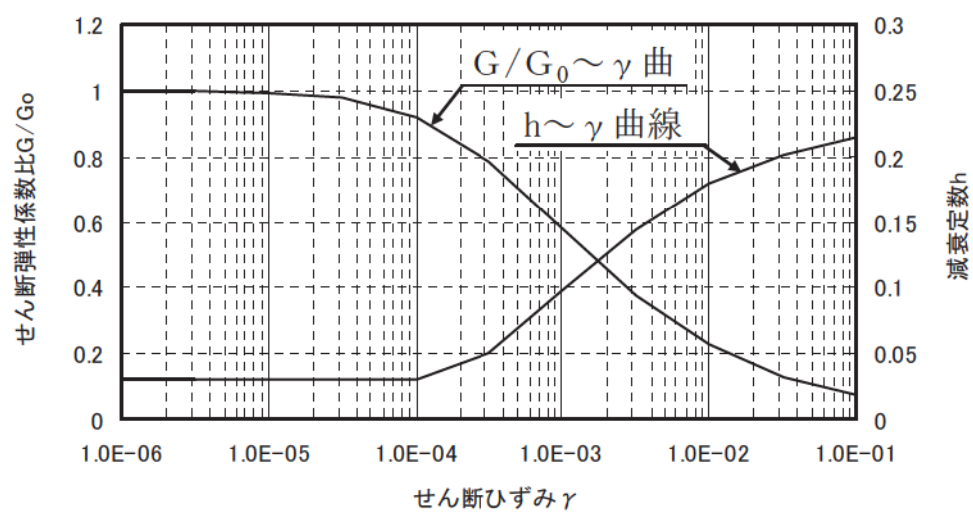
第 1.7.5 図 境界条件



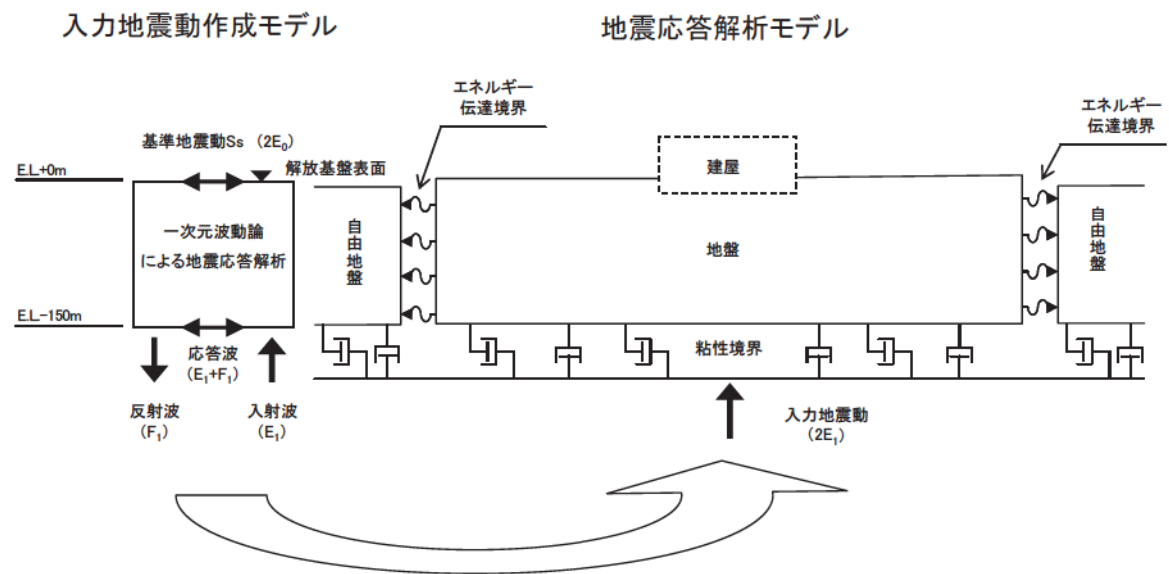
第1.7.6図 せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存特性
(D級)



第1.7.7図 せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存特性
(堆積物・埋戻土・盛土等)

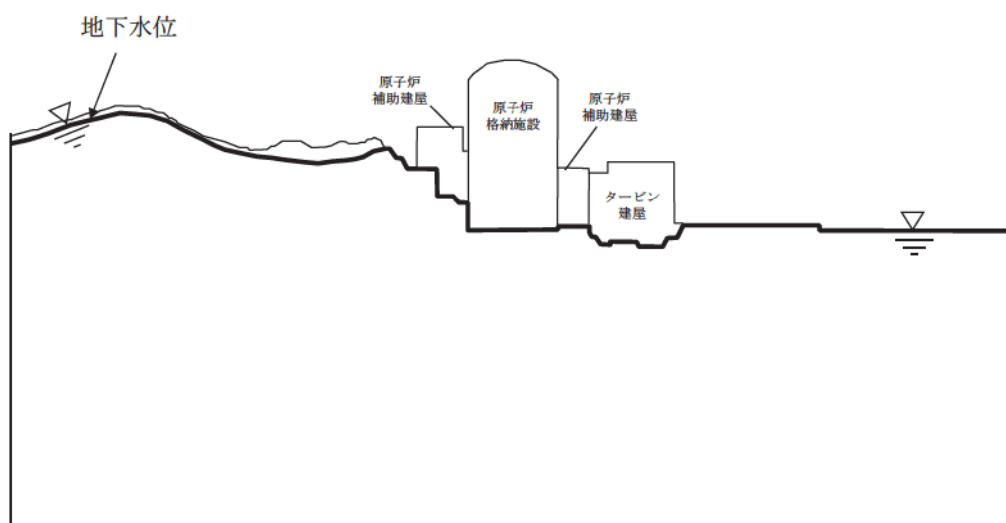


第 1.7.8 図 せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存特性
(破砕帯)

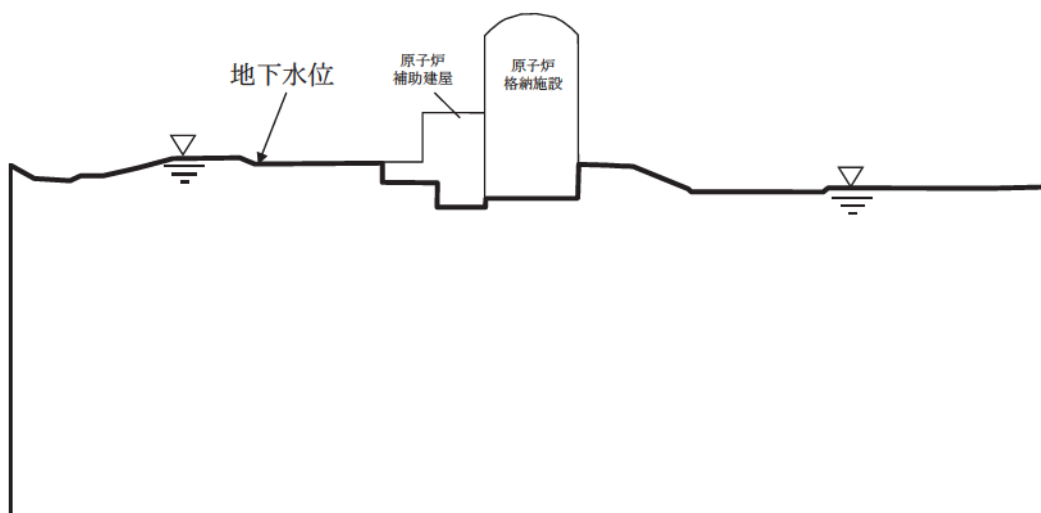


第 1.7.9 図 入力地震動の考え方

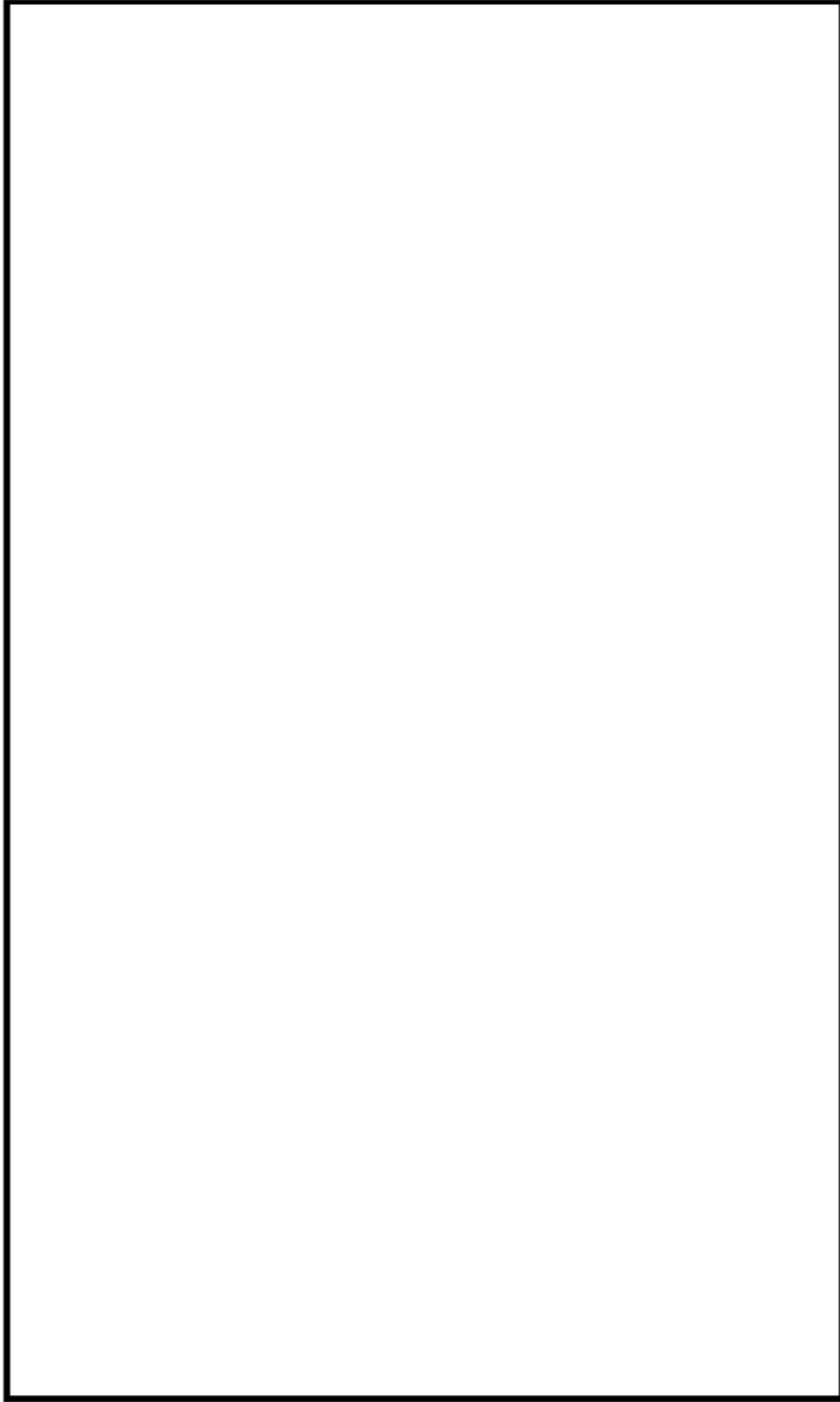
※斜面部は〔C_L〕級岩盤上端に
地下水位を設定。
岩級区分は第1.7.3図を参照。



第1.7.10図 解析用地下水位（D－D'）

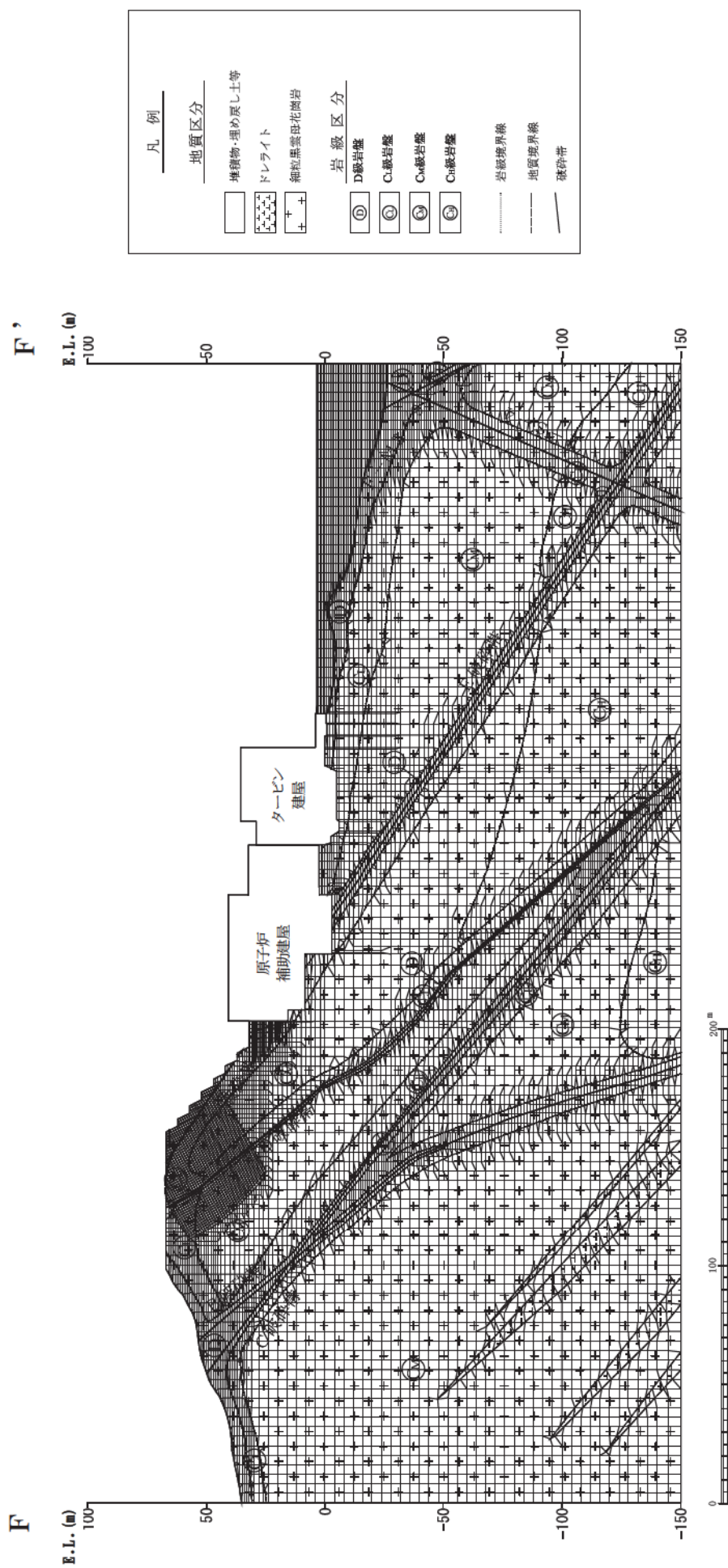


第1.7.11図 解析用地下水位（E－E'）

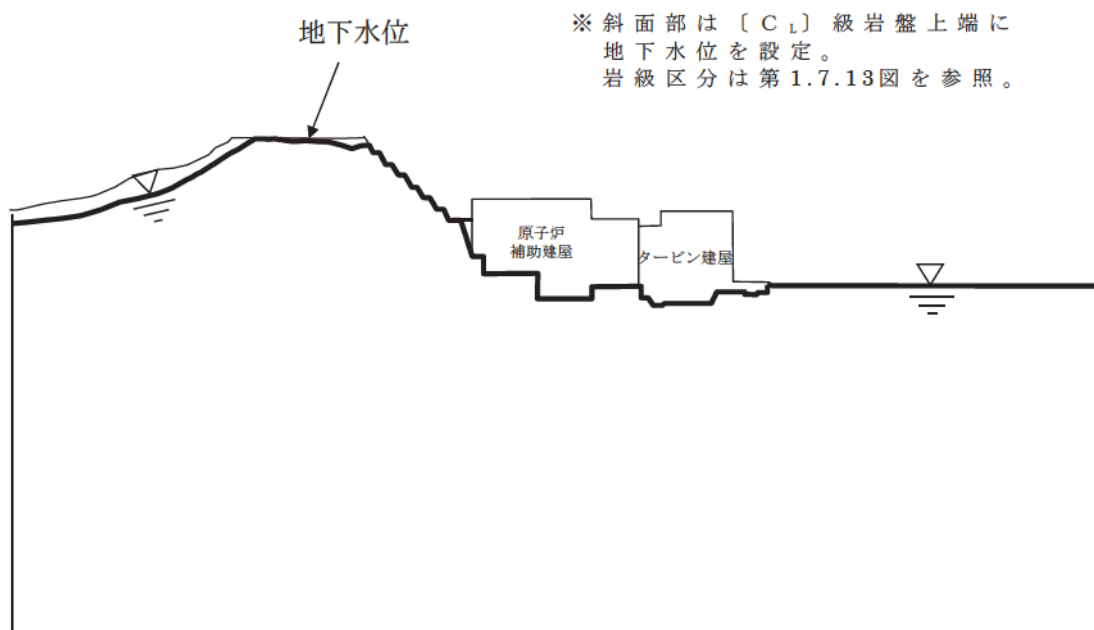


枠内の内容は機密に係る事項のため公開できません。

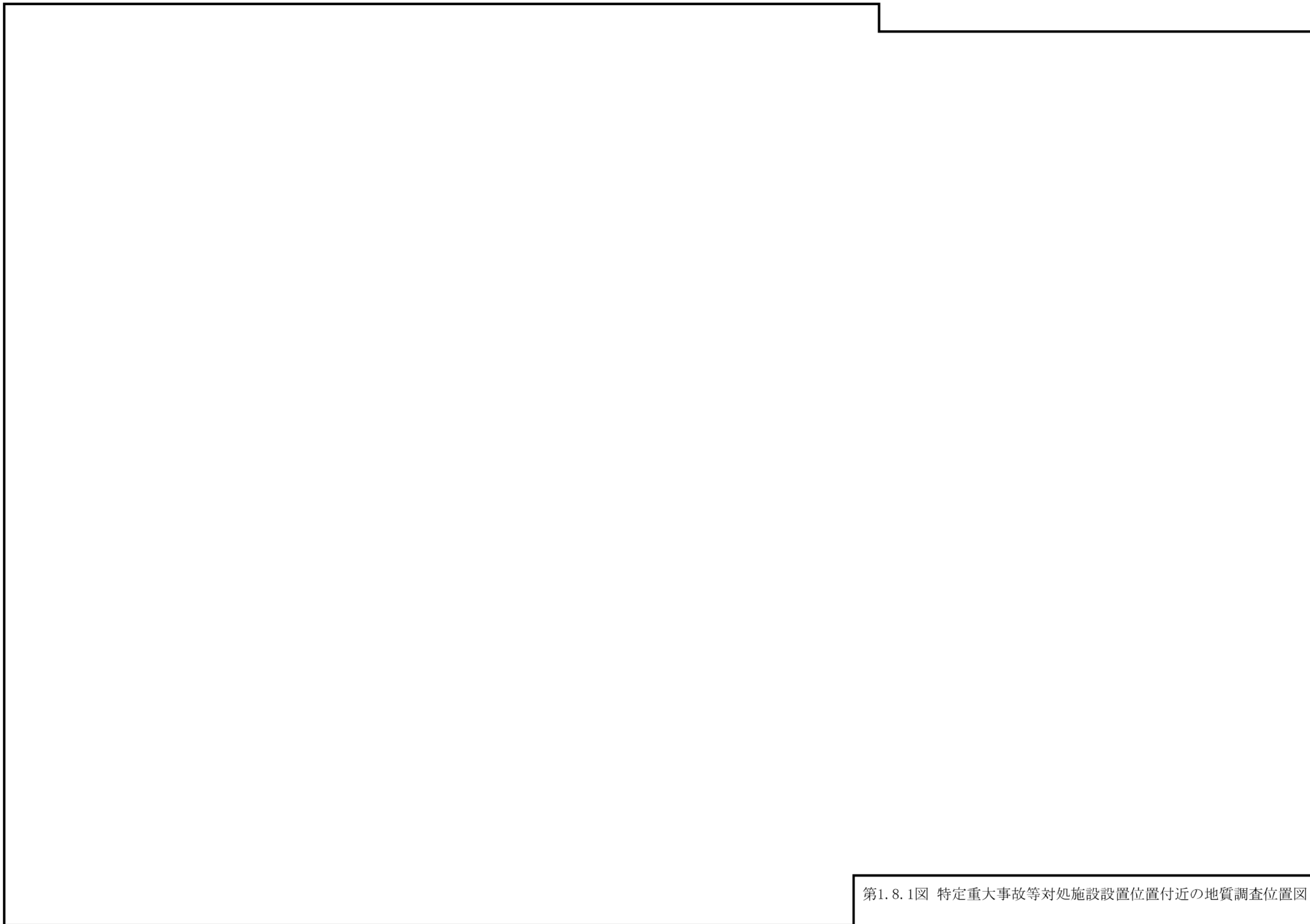
第1.7.12図 評価対象斜面及び解析断面位置図



第1.7.13図 解析用要素分割図 (F - F')

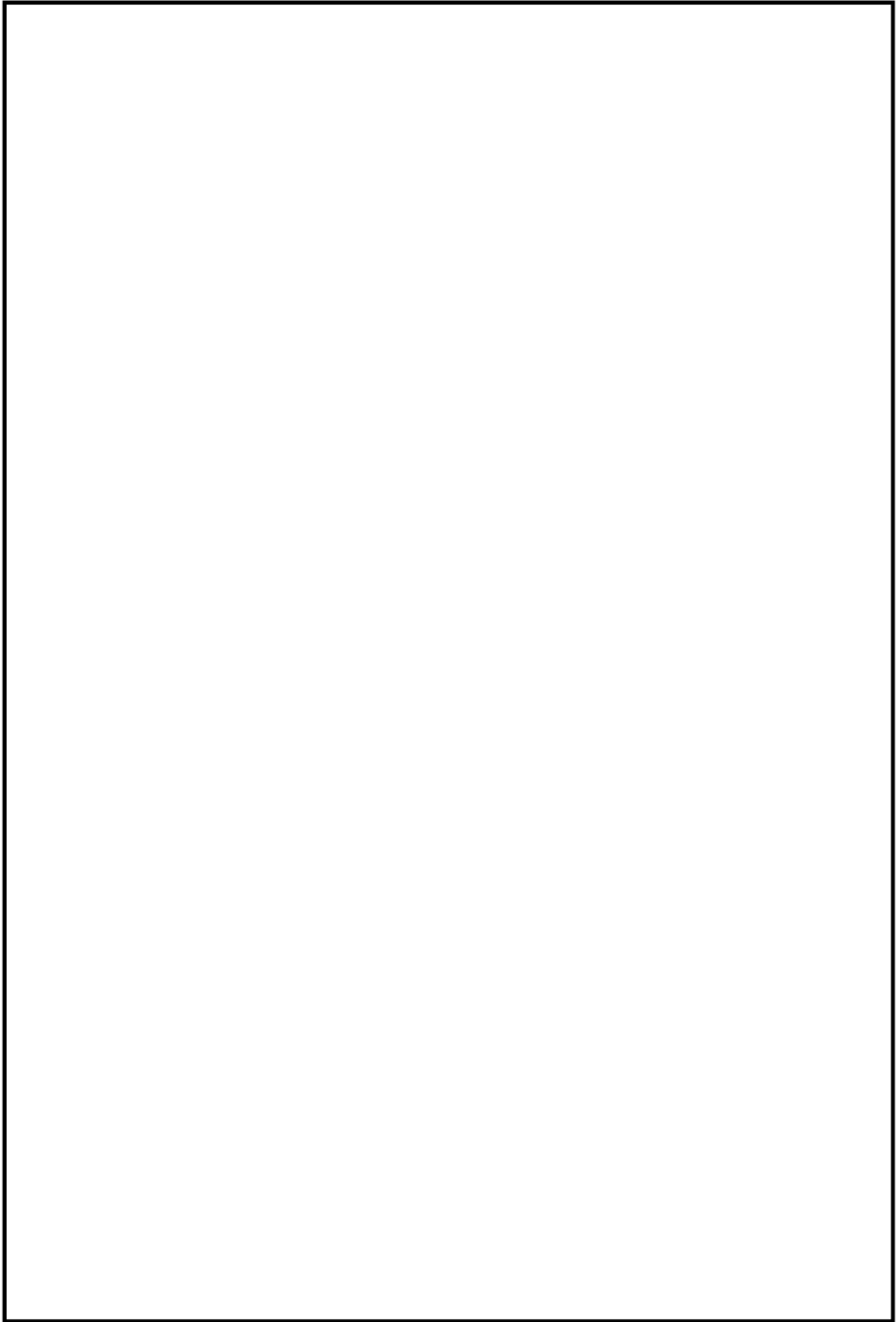


第1.7.14図 解析用地下水位（F－F'）



第1.8.1図 特定重大事故等対処施設設置位置付近の地質調査位置図

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。



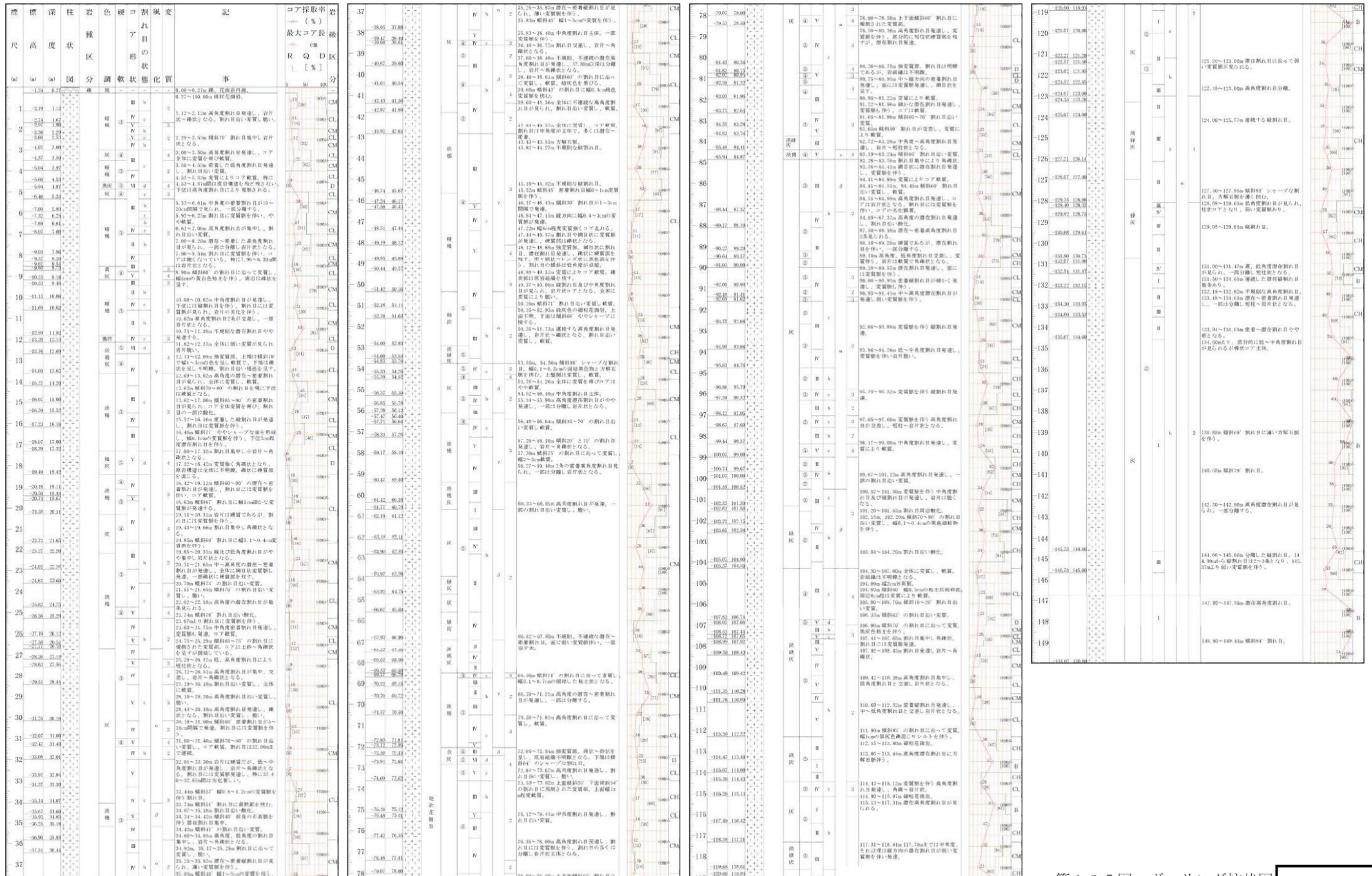
1. 8. 3 図 岩石試験試料採取位置図

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

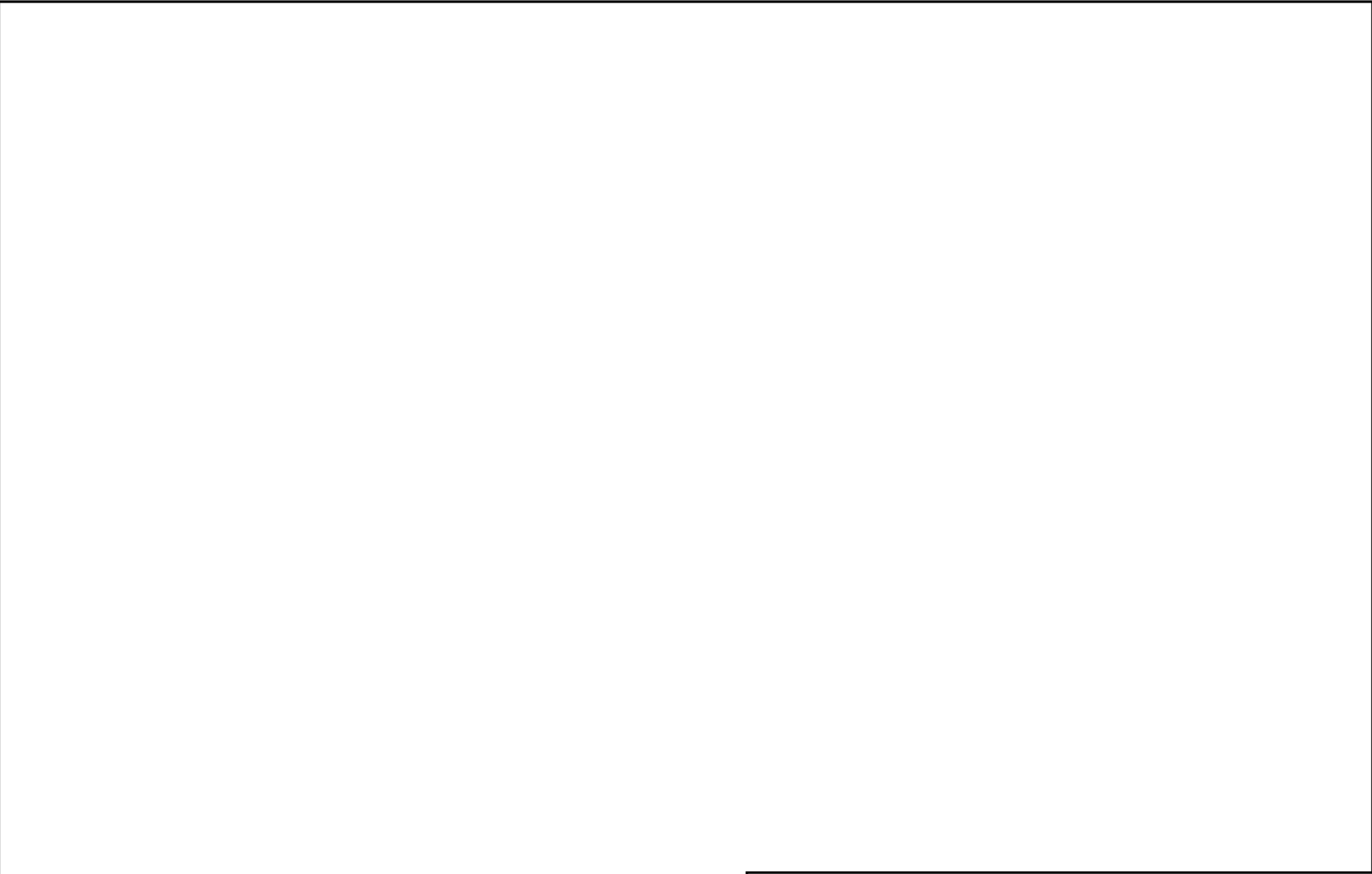
【諸元】

孔口標高：E.L. -1.07m、掘進角度：90°、掘進長：150m



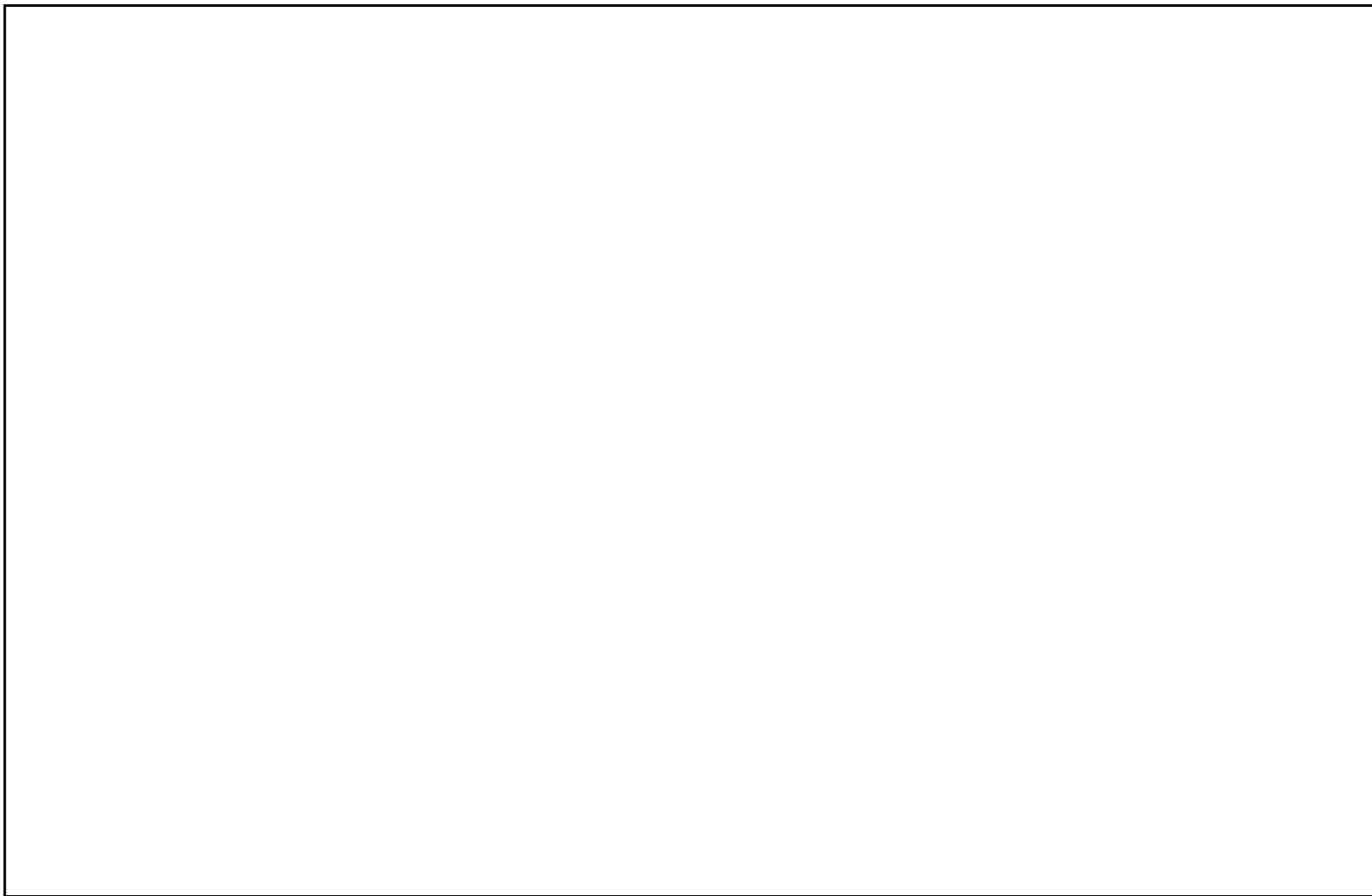
第 1.8.5 図 ボーリング柱状図

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。



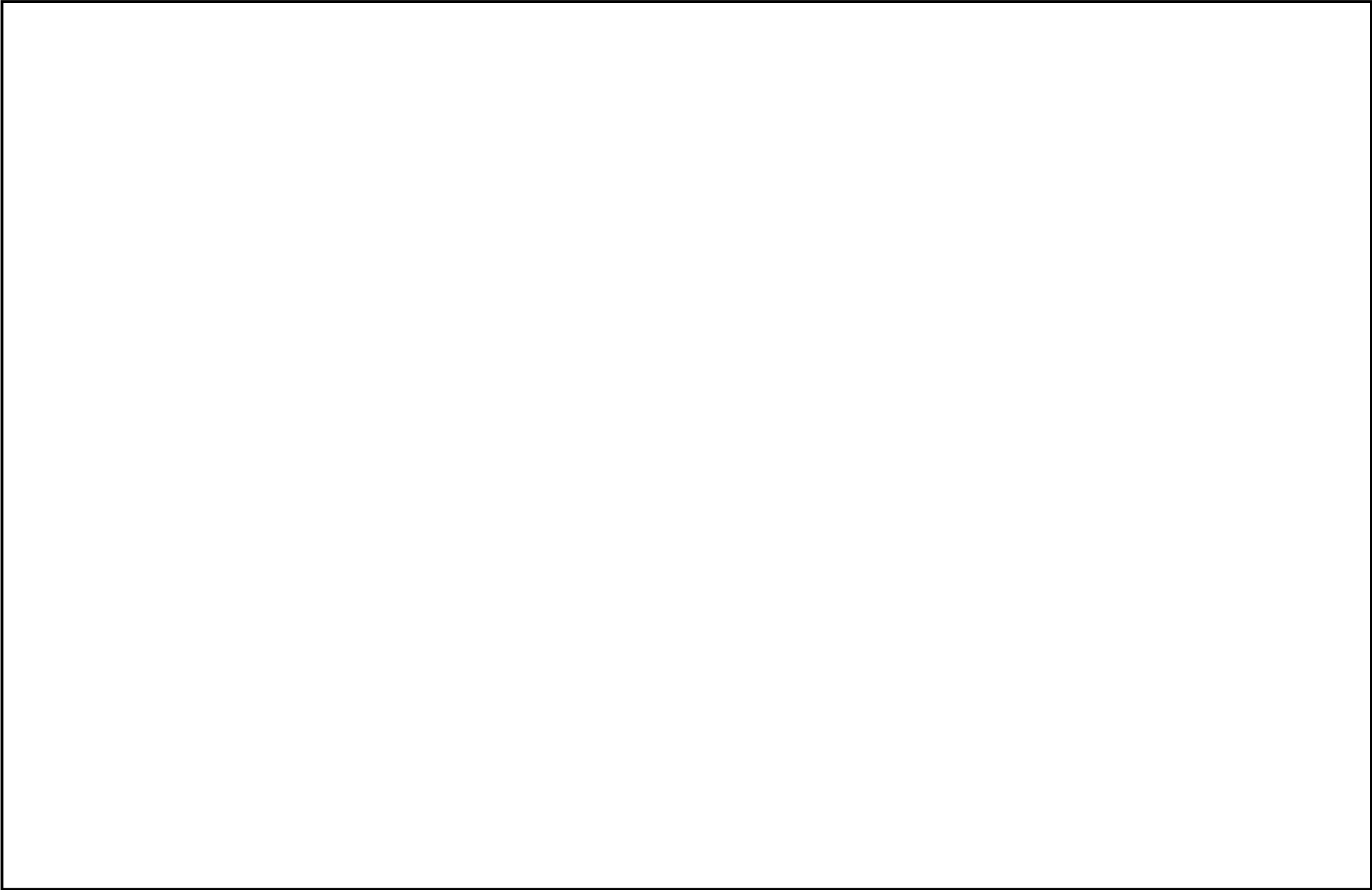
第1. 8. 6図 特定重大事故等対処施設設置位置付近の地質水平断面図 (E. L. +0m)

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。



第1.8.7図(1) 地質鉛直断面図

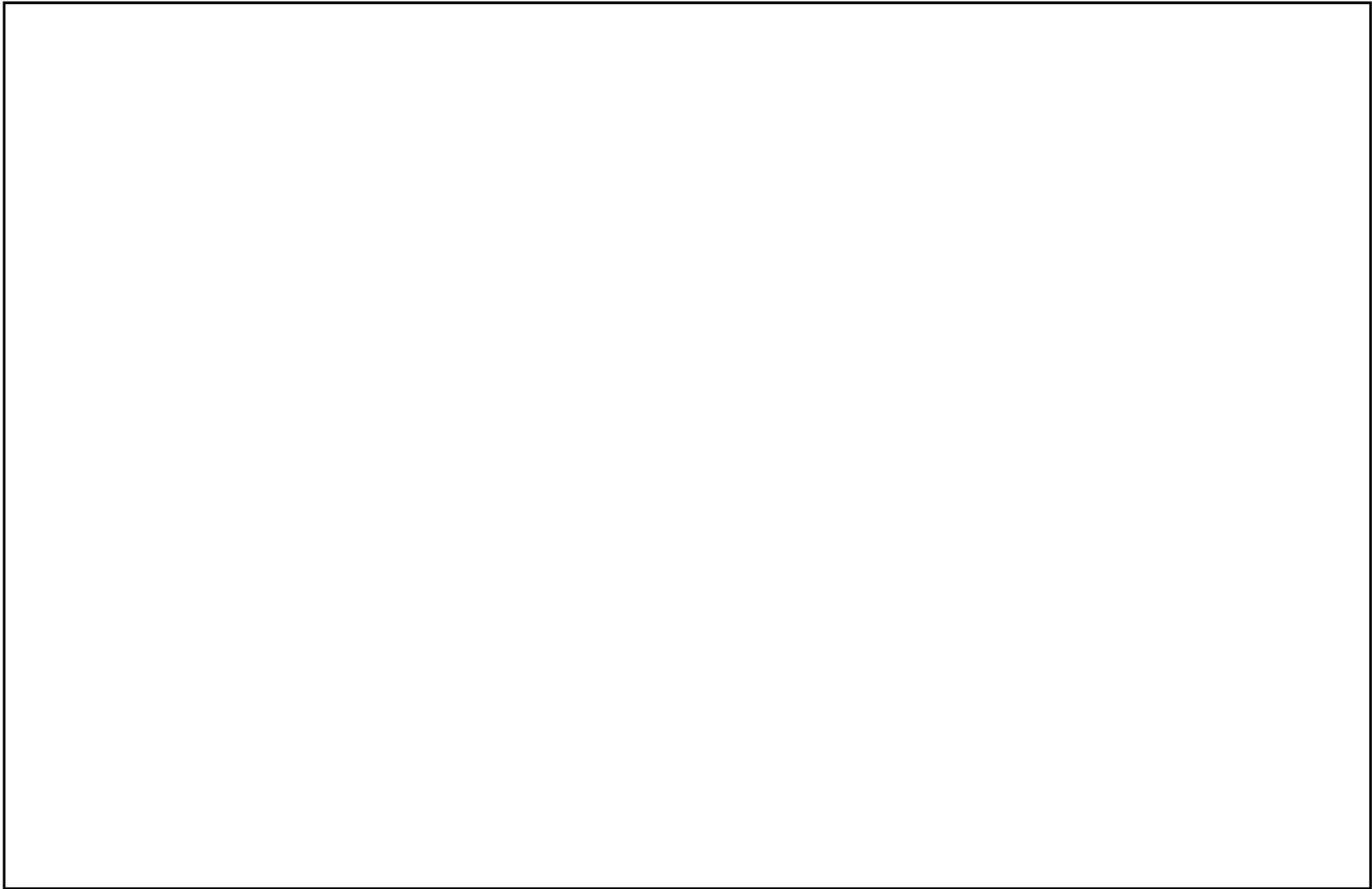




第1.8.7図(2) 地質鉛直断面図



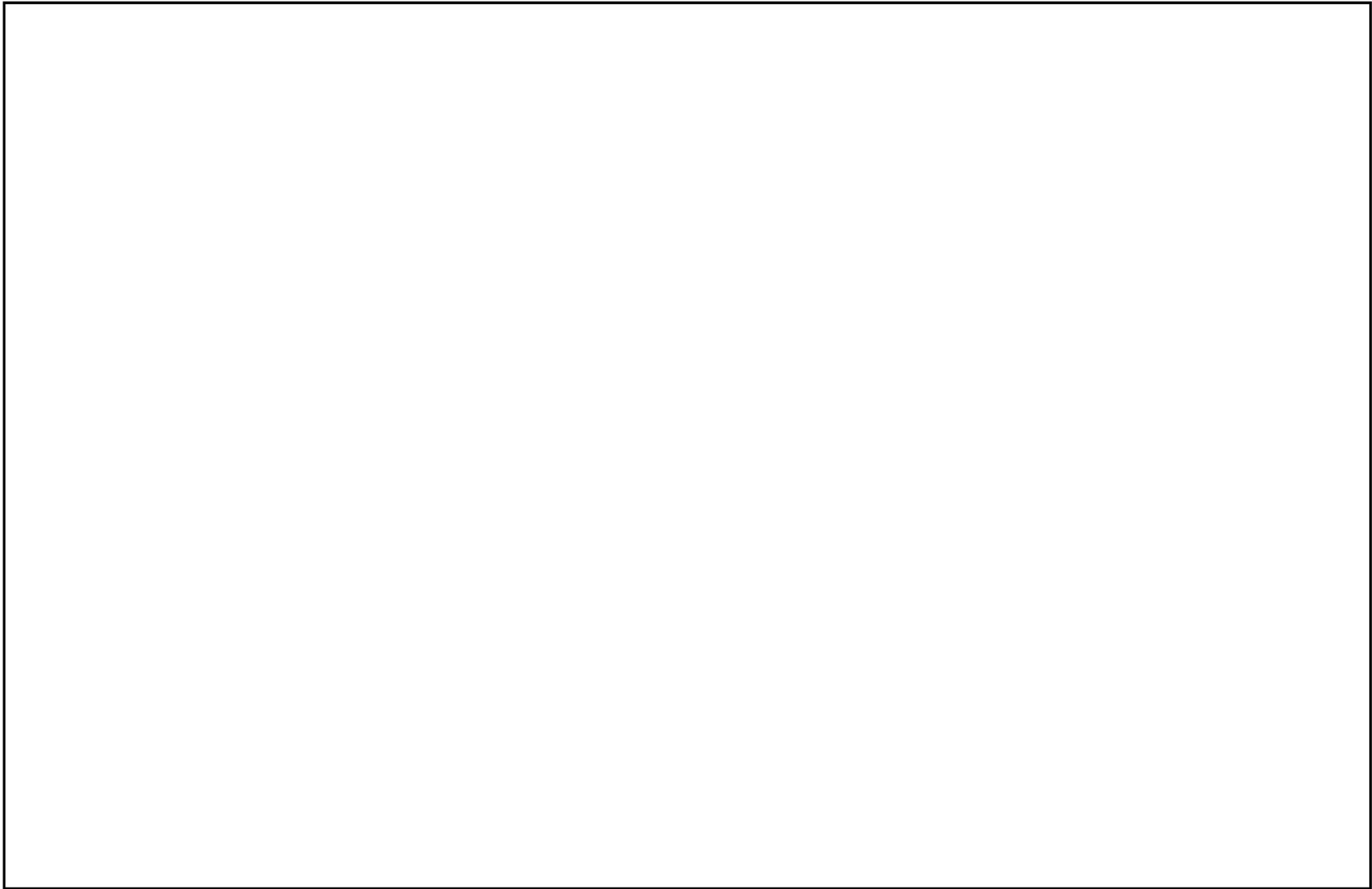
枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。



第1.8.7図(3) 地質鉛直断面図



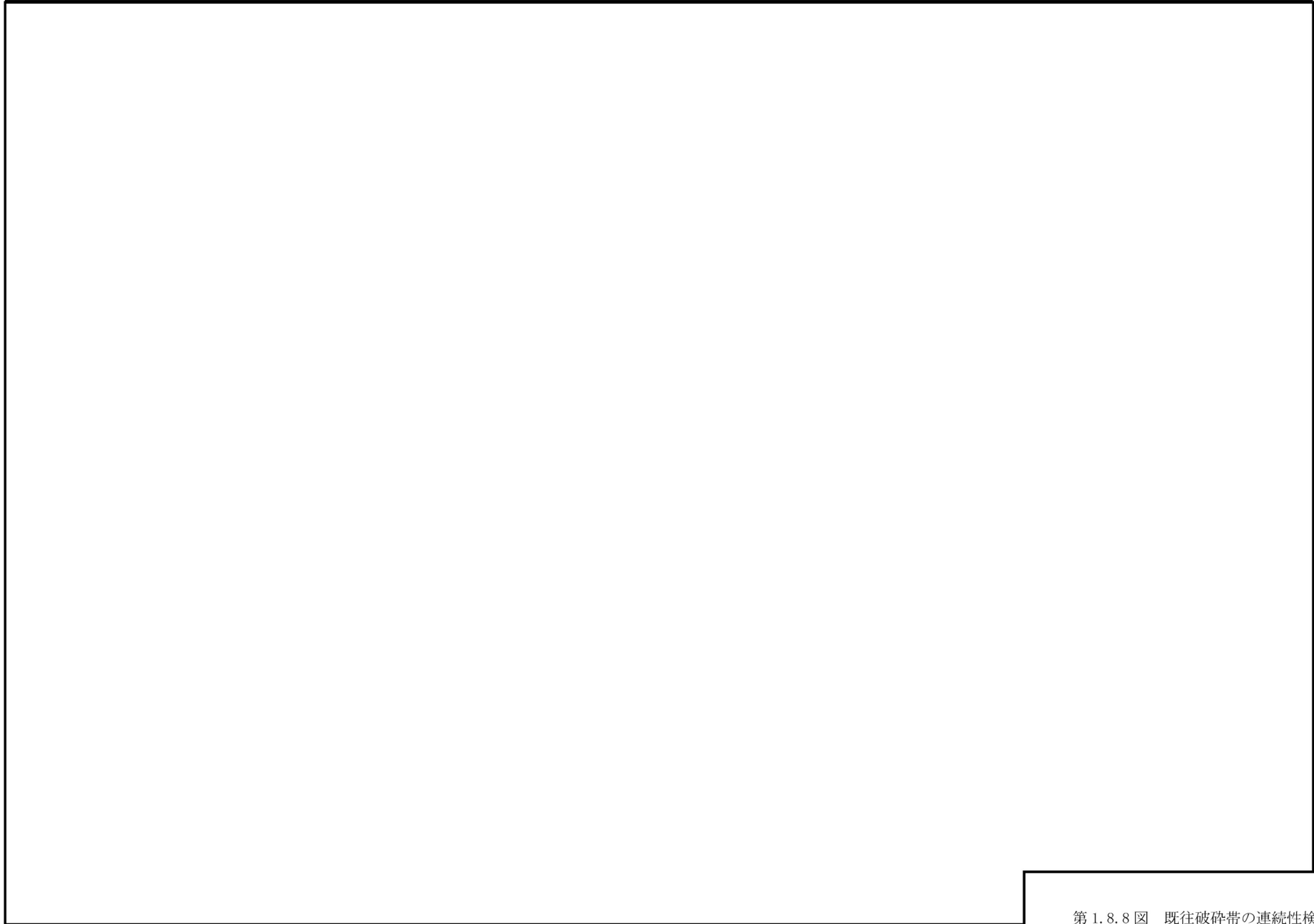
枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。



第1.8.7図(4) 地質鉛直断面図



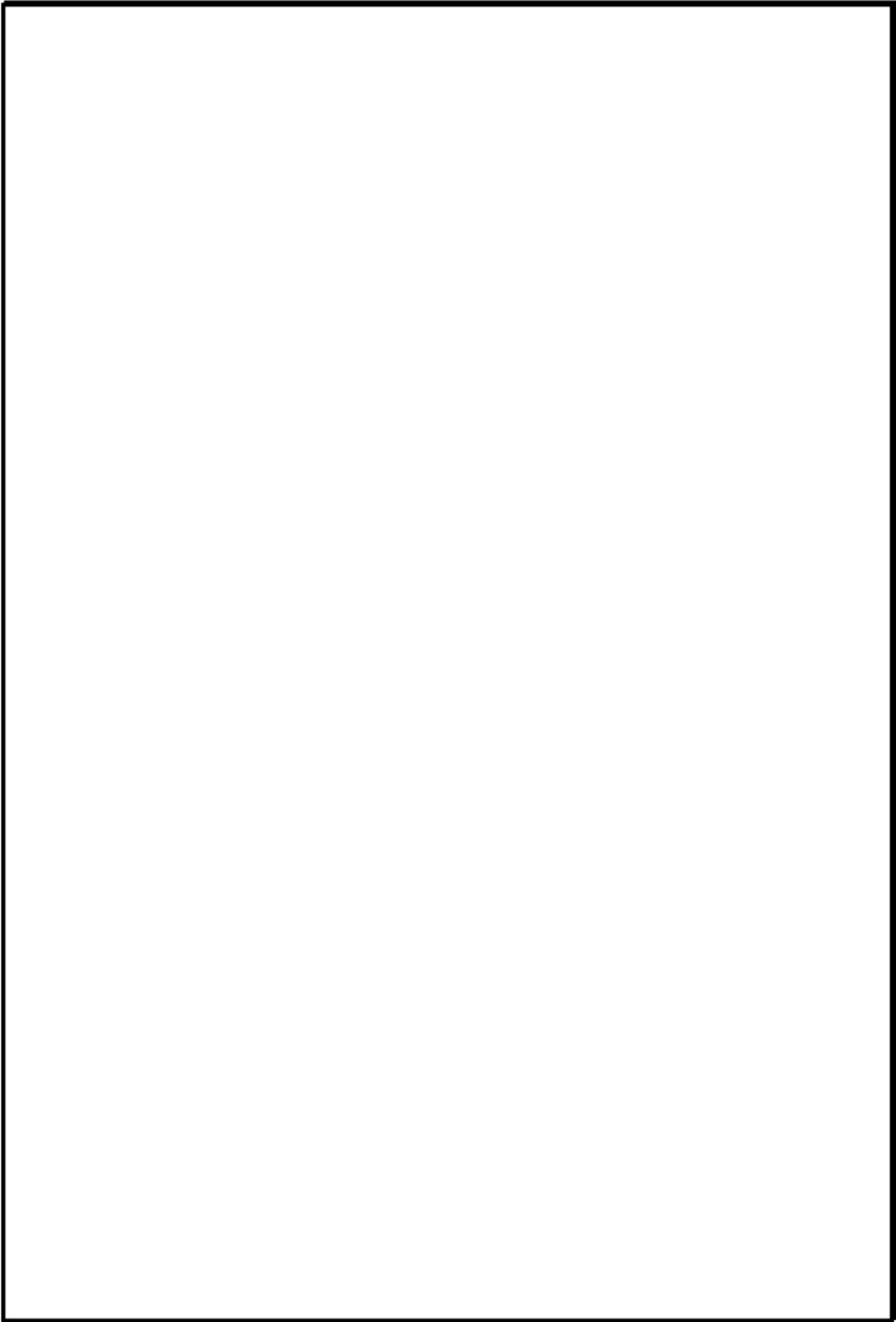
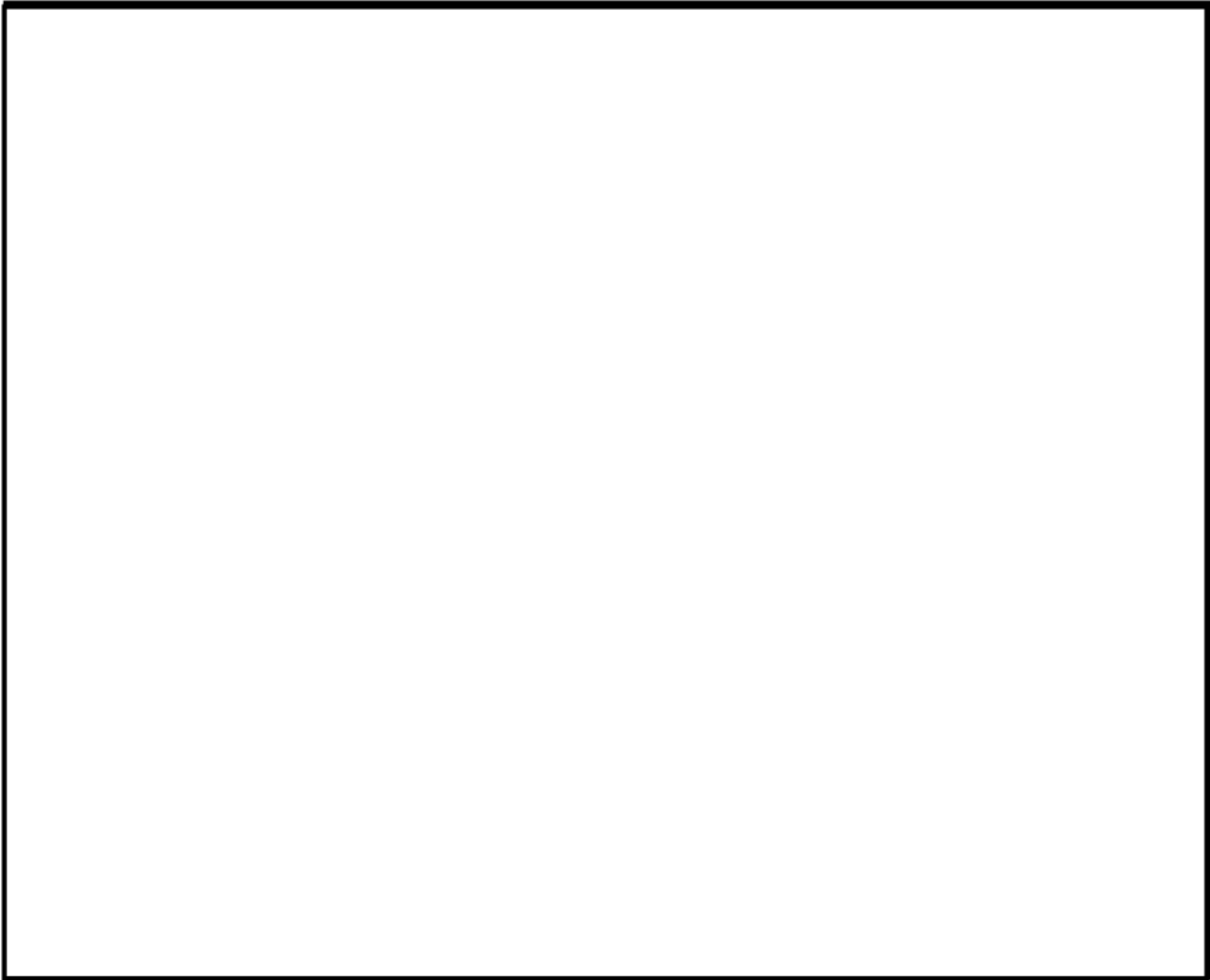
枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。



第 1.8.8 図 既往破碎帯の連続性検討

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

の連続性確認結果

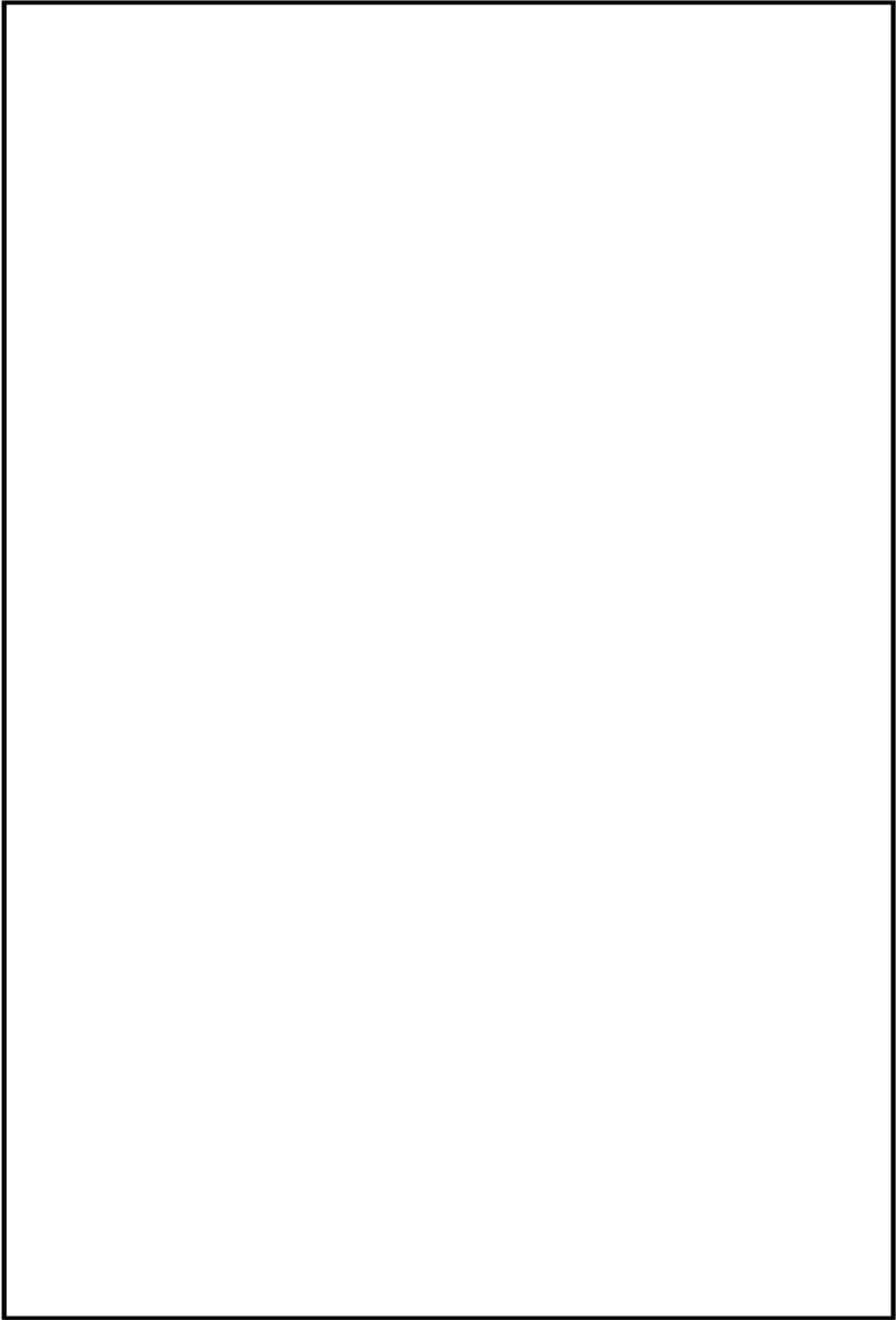


は、(深度95.0m付近)の出現位置に破砕部が認められないことから、には連続せず、設置位置付近まで延伸しないことを確認した。

第 1.8.9 図 既往破砕帯の連続性確認結果

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

の連続性確認結果

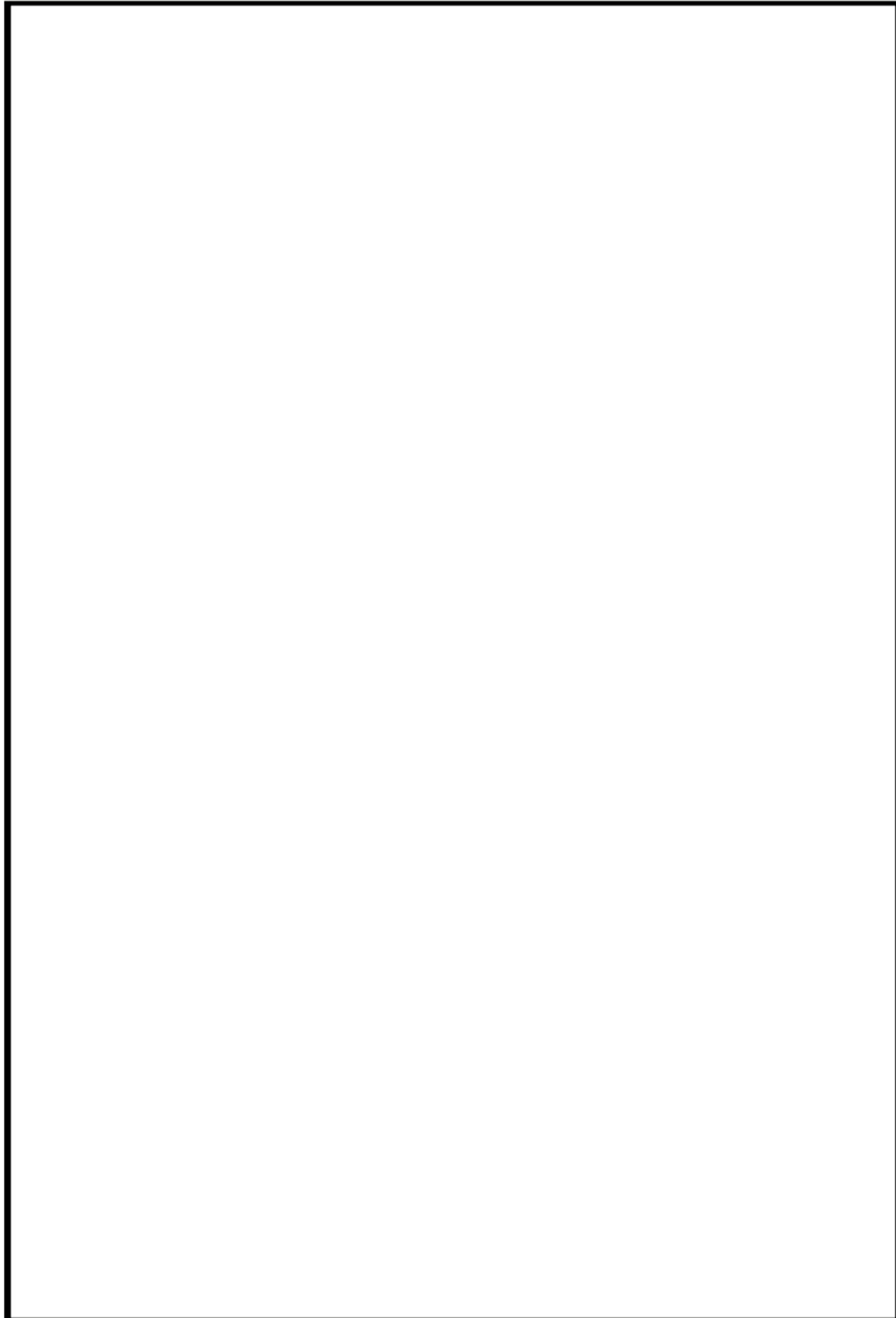
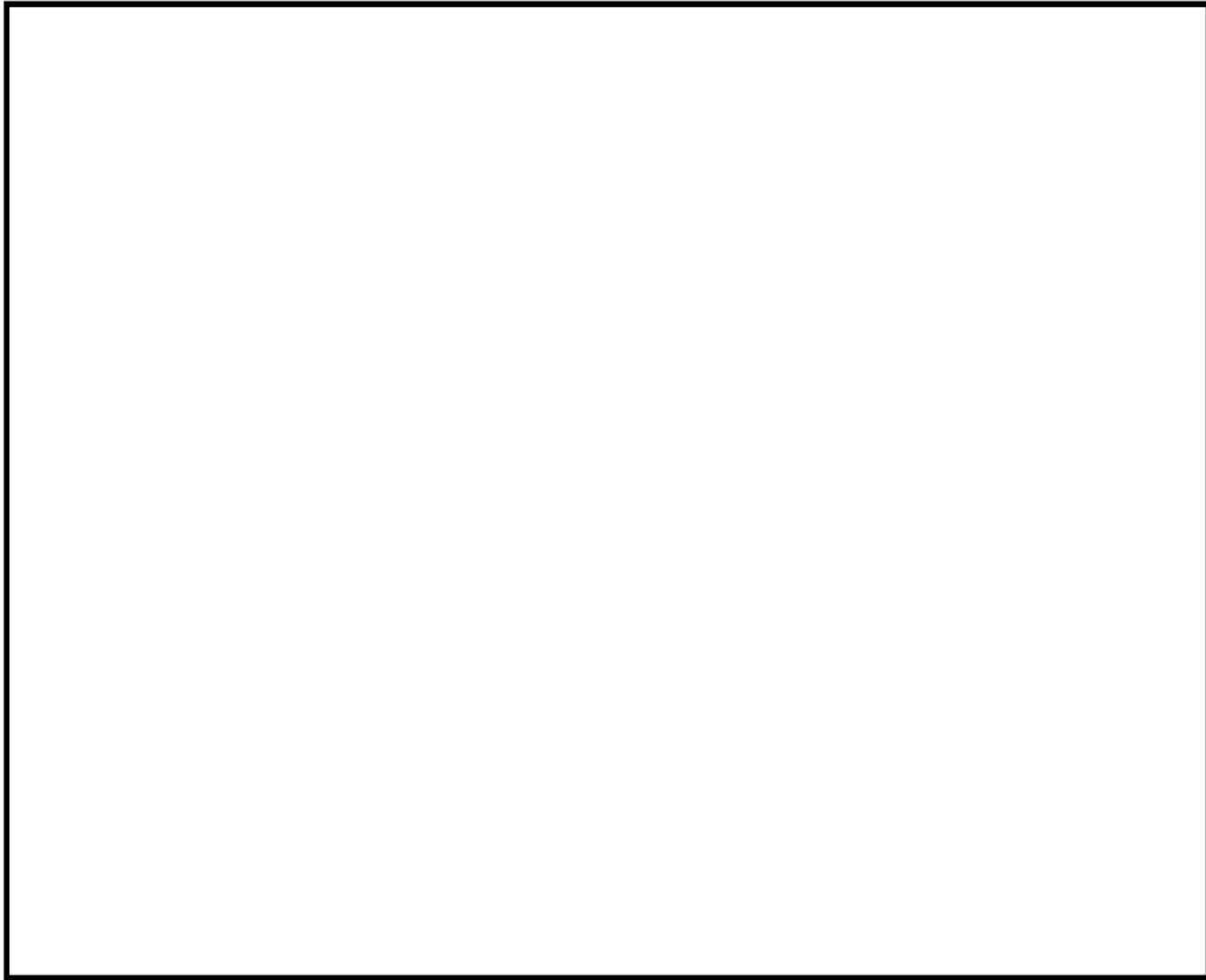


は、(深度124.4m付近)の出現位置に破碎部が認められないことから、
には連続せず、設置位置付近まで延伸しないことを確認した。

第 1. 8. 10 図 既往破碎帯の連続性確認結果

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

の連続性確認結果



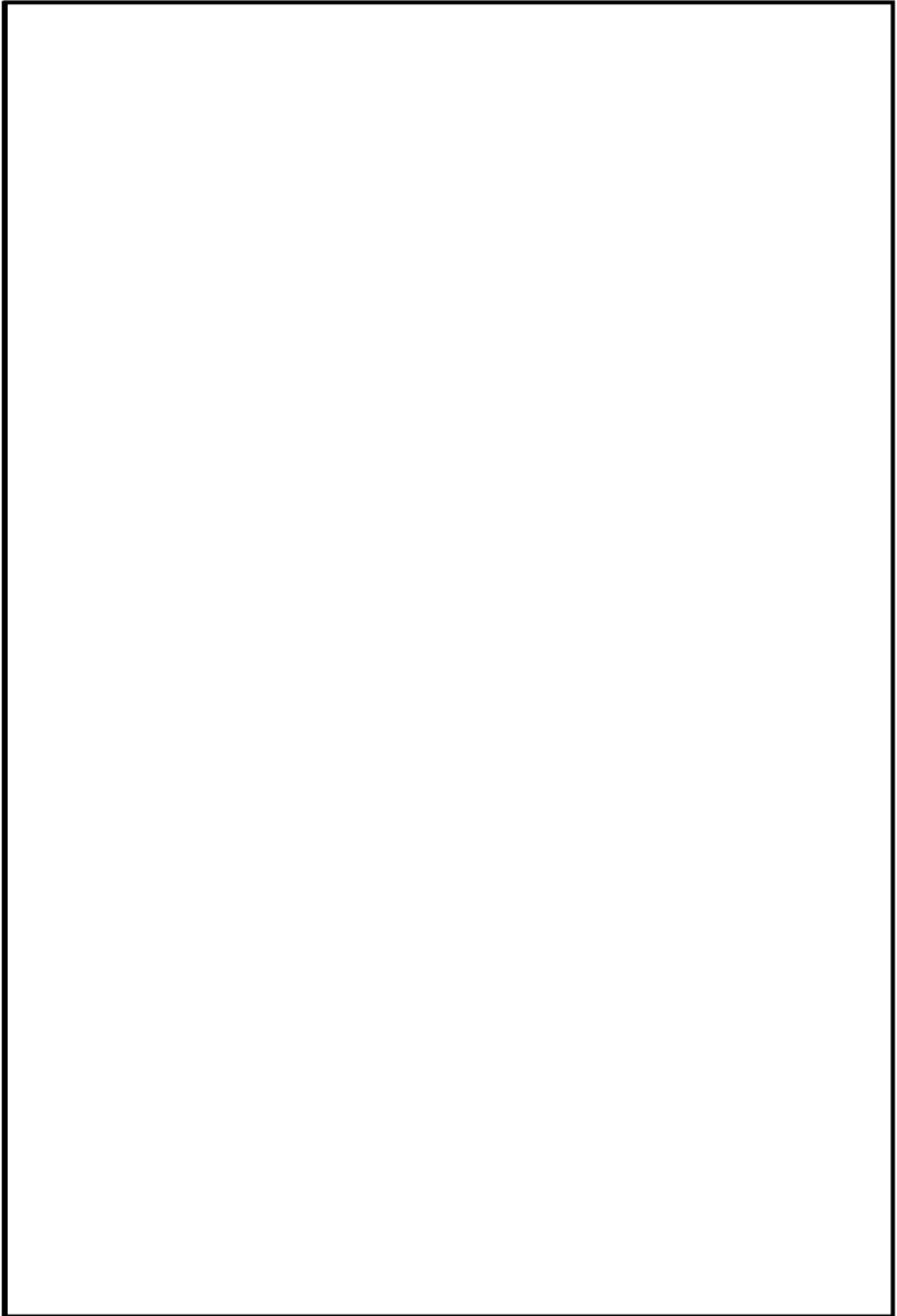
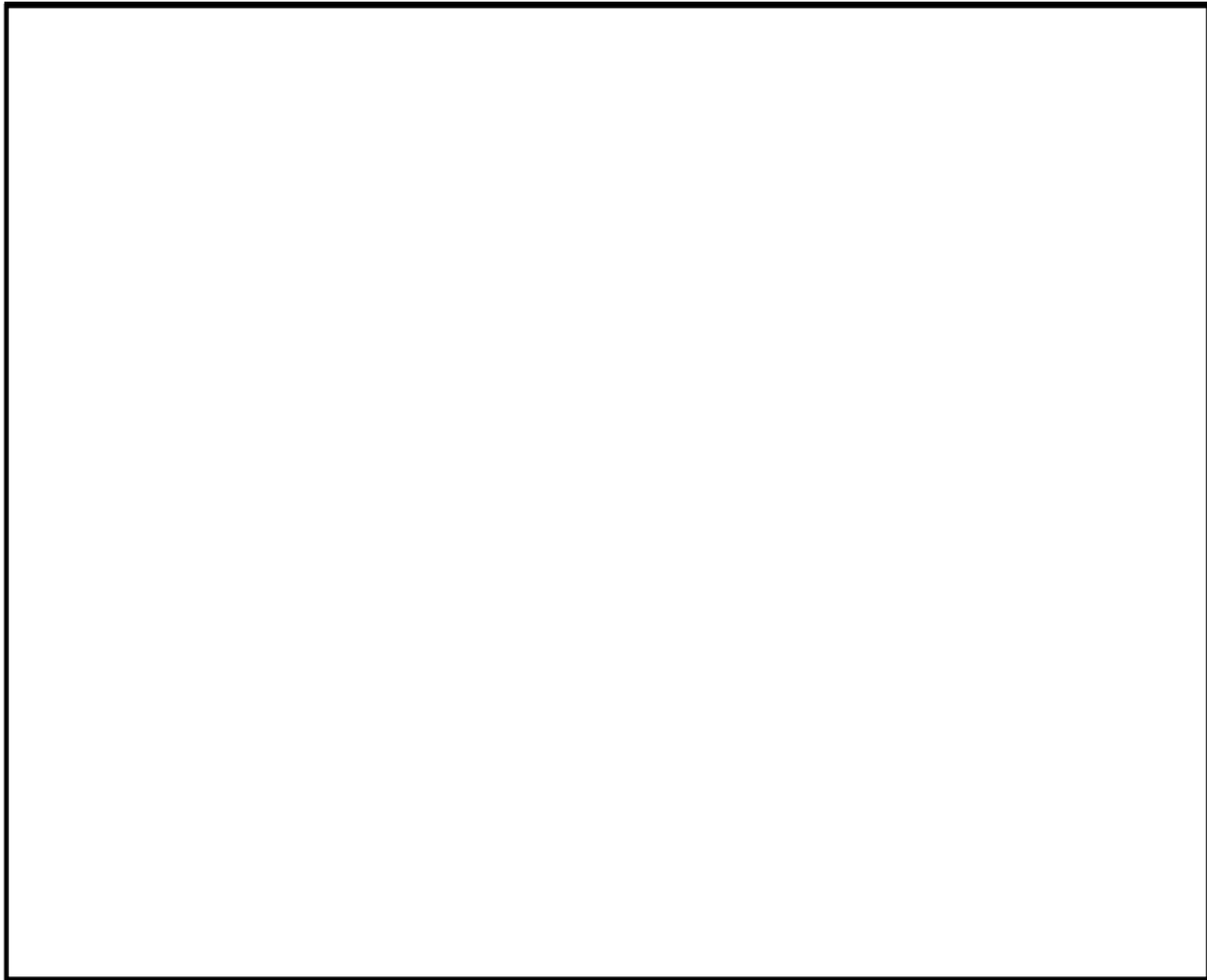
は、(深度108.8m付近)の出現位置に破砕部(深度109.40m N49E/67NW)が認められるが走向/傾斜が異なることから、には連続せず、設置位置付近まで延伸しないことを確認した。

破砕部

第 1.8.11 図 既往破砕帯の連続性確認結果

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

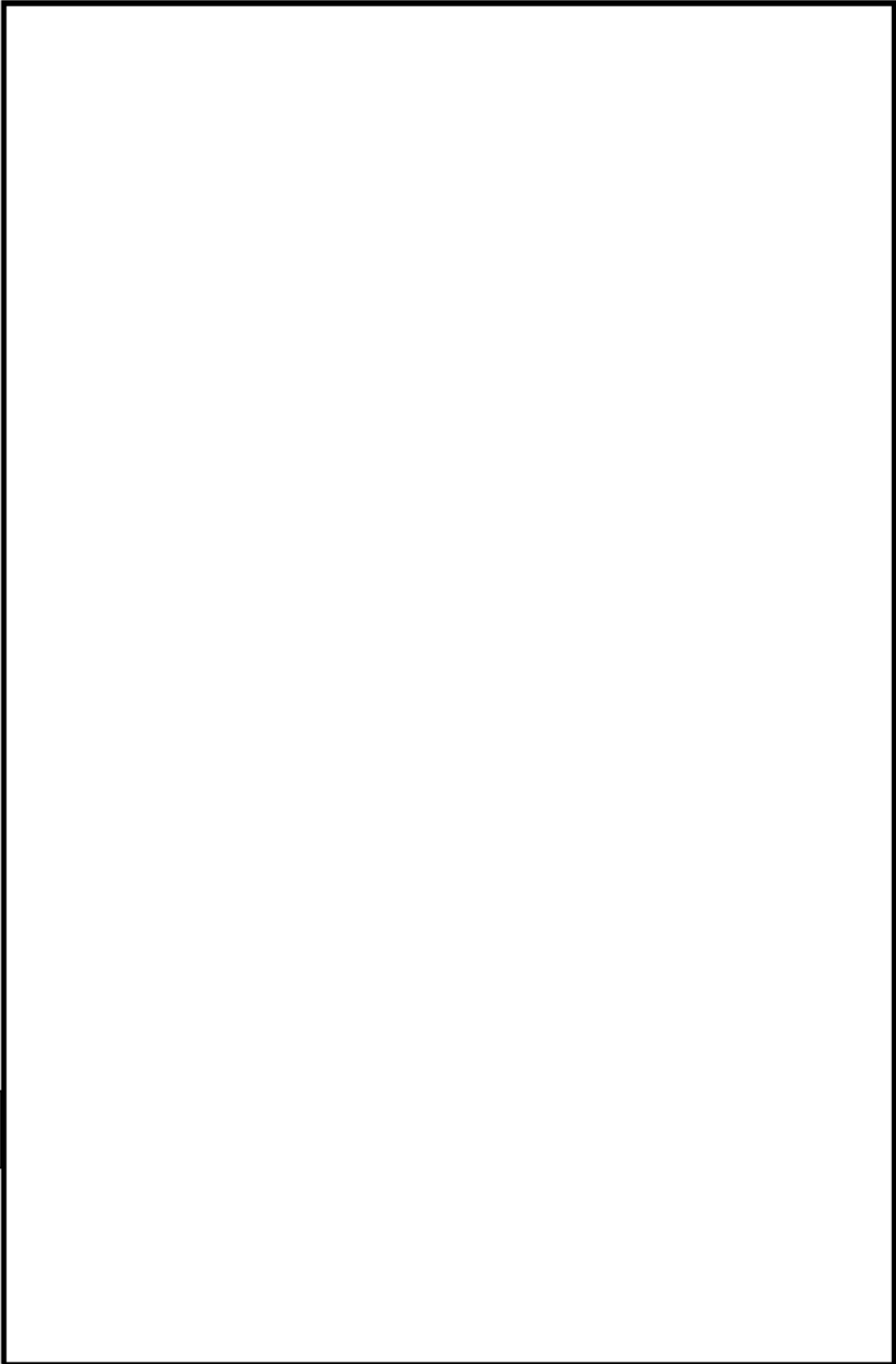
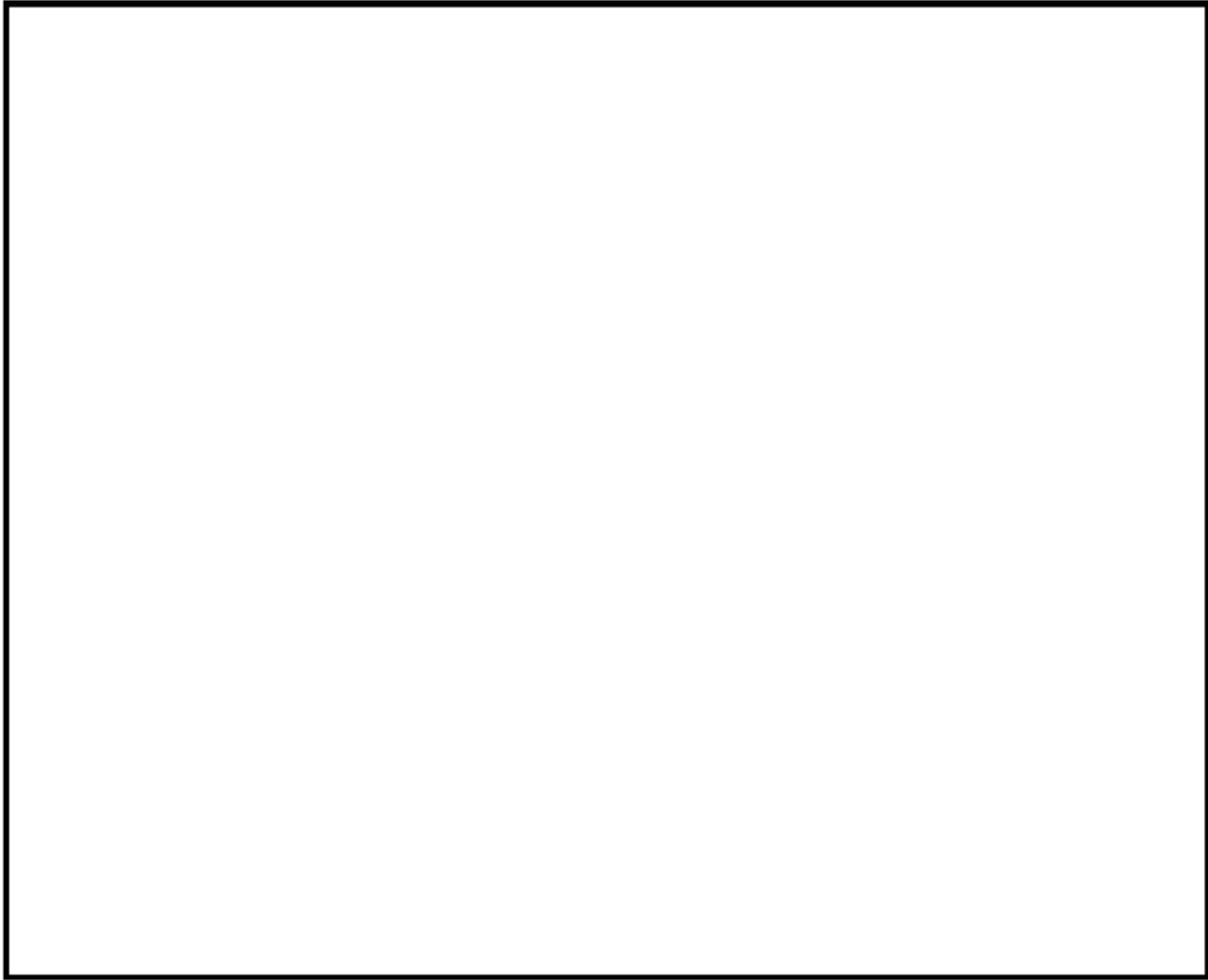
の連続性確認結果



は、（深度69.9m付近）の出現位置に破砕部が認められないことから、
には連続せず、設置位置付近まで延伸しないことを確認した。

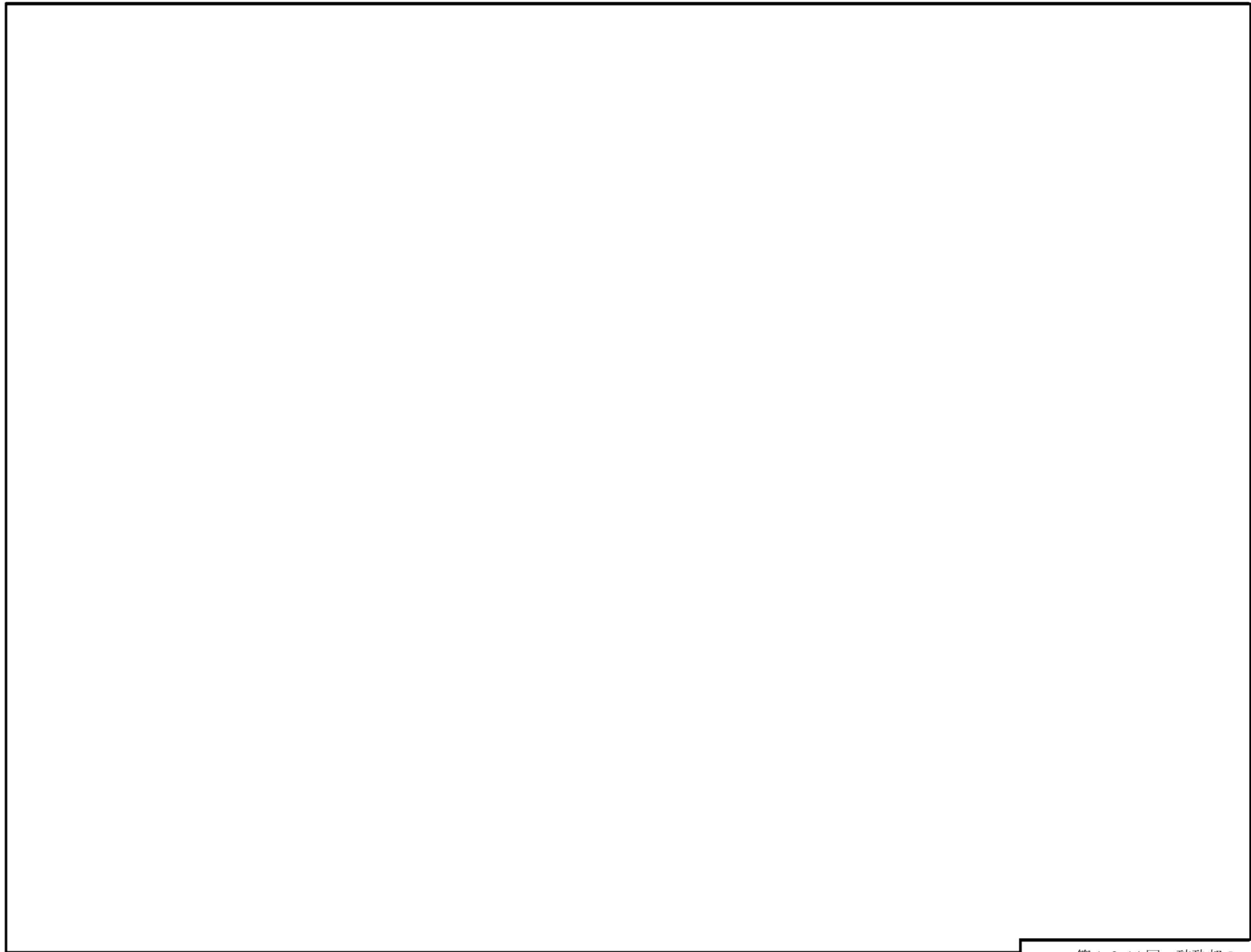
第 1. 8. 12 図 既往破砕帯の連続性確認結果

の連続性確認結果



は、(深度14.0m付近)の出現位置に破砕部が認められないことから、には連続せず、設置位置付近まで延伸しないことを確認した。

第 1.8.13 図 既往破砕帯の連続性確認結果

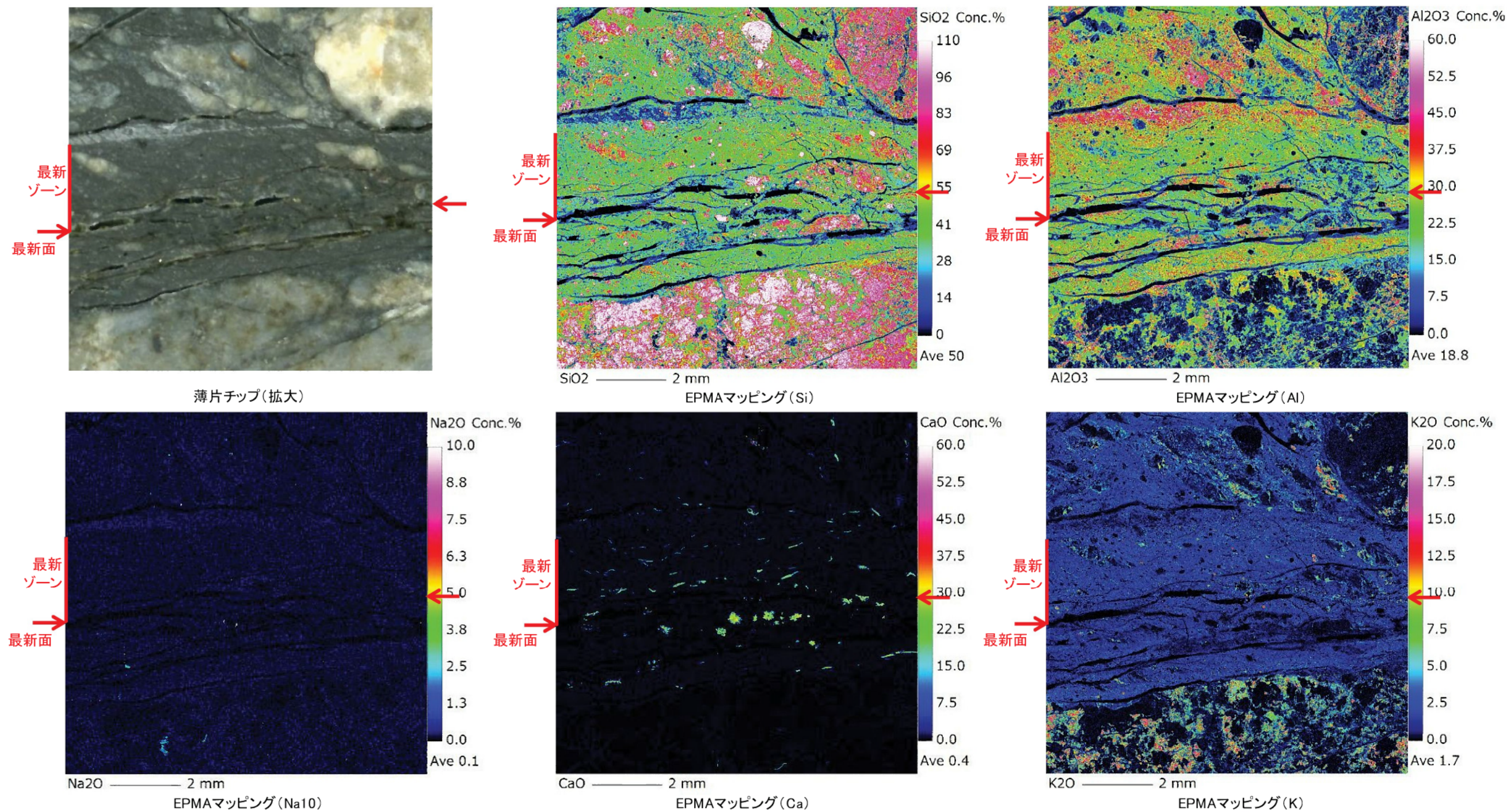


第 1.8.14 図 破碎部のコア観察結果

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

破砕部のEPMA分析結果

(150.90m付近)について、薄片を作成したチップを用いて、EPMA分析を行った。
破砕部のEPMAマッピングにより、最新ゾーンの粘土鉱物脈の主成分組成を比較する。



最新ゾーンの粘土鉱物脈は、EPMAマッピングでの主成分の組成に違いがない
(例えば、Alなど)ため、分帯は認められない。

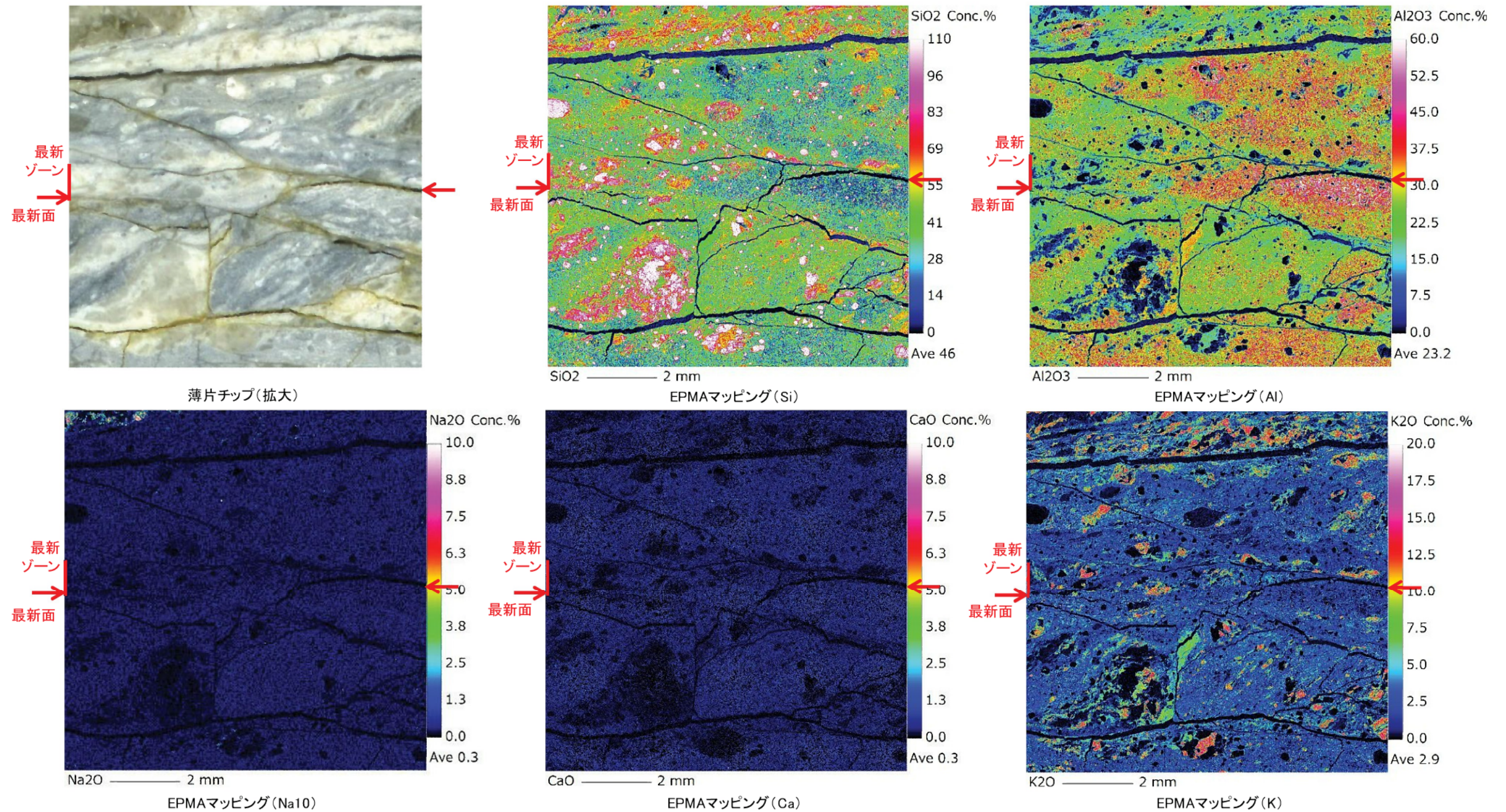
最新ゾーンには分帯が認められないことから、XRD分析結果で認められた雲母粘土鉱物とスメクタイトは混在していると考えられる。

第 1.8.15 図(1) 破砕部の EPMA 分析結果

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

破砕部のEPMA分析結果

32.35m付近)について、薄片を作成したチップを用いて、EPMA分析を行った。
・破砕部のEPMAマッピングにより、最新ゾーンの粘土鉱物脈の主成分組成を比較する。



・最新ゾーンの粘土鉱物脈は、EPMAマッピングでの主成分の組成に違いがない
(例えば、Alなど)ため、分帯は認められない。

・最新ゾーンには分帯が認められないことから、XRD分析結果で認められた雲母粘土鉱物とスメクタイトは混在していると考えられる。

第 1.8.15 図(2) 破砕部の EPMA 分析結果

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。